

医史学関係文献目録 (五十音順)

単行本

- 『昔の血液観』宗田一 カッター・ジャパン(株)
 『神奈川県伊勢原市域医療史概観』奥富敬之 伊勢原市医師会
 『切手が語る医学のあゆみ』古川明 医歯薬出版
 『醫心方一千年記念誌』医心方一千年記念会 医心方一千年記念会
 『東洋医学論集』医聖社
 『日蘭のかけ橋六』関西日蘭協会 関西日蘭協会事務局
 『DDT革命 占領期の医療福祉政策を回想する』C・F・サムス 岩波書店
 『光明皇后』(人物叢書、新装版) 林 陸朗 吉川弘文館
 『杉田玄白』(人物叢書、新装版) 片桐一男 吉川弘文館
 『ヘボン』(人物叢書、新装版) 高谷道男 吉川弘文館
 『浅田宗伯書簡集』五十嵐金三郎編 汲古書院
 『北里柴三郎』長木大三 慶応通信株式会社
 『荻野吟子—実録—日本の女医第一号』奈良原春作 国書刊行会
 『実学史研究』(一)、(三) 実学資料研究会 思文閣出版
 『阿知波五郎論文集』(上) 近代医史学論考 (下) 医史学点描 阿知波五郎 思文閣出版
 『オランダ留学生—若き日の津田真道—』原 三正 歯族社
 『中国古代医学』趙璞珊著、滝川 巖訳 自家版

- 『広島県医人伝 第一集』江川義雄 自家版
 『小鼎追悼録』小川東洋編 自家版
 『切手が語る医学のあゆみ』(古川明著) 書評集』石原理年編 自家版

- 『近代文学作品に描かれた医師像』小松良夫 自家版
 『築造三五〇周年、長崎・出島展』小学館美術編集部 小学館
 『沼津市明治史料館』沼津兵学校 沼津市明治史料館
 『明治医事往来』立川昭二 新潮社
 『大阪史蹟辞典』三善貞司 清文堂
 『人道・日赤のてびき』『日赤のてびき』刊行委員会 蒼生書房
 『田村藍水・西湖公用日記』草野冴子、藤田 寛校訂 続群書類従完成会
 『太田正雄先生(木下全太郎) 生誕百年記念会文集』太田正雄先生生誕百年記念会 太田正雄先生生誕百年記念会
 『医学の歴史』(一)~(四) シンガー、アンダーウッド著 朝倉書店
 『写真集』甦る幕末—オランダに保存されていた八〇〇枚の写真から(写真展目録) 朝日新聞社 朝日新聞社
 『くすり看板(くすり博物館収蔵資料集一)』青木允夫、小山みか子 内藤記念くすり博物館
 『写真で見る新潟教会の歩み一八八六—一九八六』本井康博編 日本キリスト教団新潟教会
 『こころの母校 済生学舎小史』日本医科大学同窓会史料編集委員会 日本医科大学同窓会

『遺伝学の歩みと現代生物学』中村禎里 培風館

『洋学者稿本集』佐藤昌介解題 八木書店

『福井県医師会史、第二巻、資料編』福井県医師会・会史編纂委員会 福井県医師会

『三蔵法師の旅を旅する』杉本茂春 編集工房ノア

『日本のベスト流行史』春日忠善 北里メデイカルニュース編集部

『ターヘル・アナトミアと解體新書』酒井 恒訳編 名古屋大学出版会

『講座・差別と人種(五)心身障害者』磯村英一編 雄山閣

医学切手・書画

『石川大浪と渡辺華山のヒポクラテス画像』緒方富雄『げんざ』

一五(四)二一~二四

『産業革命期の社会改革家とベルギーの炭坑災害の記念切手』三浦豊彦『科学医学資料研究』(一四七)一~七

『切手にみる整形・災害外科学』(一一)カレル(Alexis Carrel,

一八七三~一九四四)中谷欣二『整形・災害外科』二九(一)四八

『切手にみる整形・災害外科学』(一二)ラントシエタイナー(Karl

Landsteiner, 一八六八~一九四三)中谷欣二『整形・災害外科』二九(一)二二二

『切手にみる整形・災害外科学』(一四)国際障害者年」中谷欣二

『整形・災害外科』二九(三)三三三~四

『切手にみる整形・災害外科学』(一五)バンビノ(Bambino)』

中谷欣二『整形・災害外科』二九(四)四一六

『切手にみる整形・災害外科学』(一六)ラレー(Dominique Jean Larey, 一七六六~一八四二)中谷欣二『整形・災害外科』二九(五)六三六

『切手にみる整形・災害外科学』(一七)華陀(Hua Tu, 一〇

~二〇七頃)中谷欣二『整形・災害外科』二九(六)七五四

『切手にみる整形・災害外科学』(一八)ロング(Crawford W. Long, 一八一五~一八七八)全身麻酔の発明」中谷欣二『整形・災害外科』二九(七)八六一

『切手にみる整形・災害外科学』(一九)慢性関節リウマチ」中谷

欣二『整形・災害外科』二九(九)一一三~五

『切手にみる整形・災害外科学』(二〇)輸血」中谷欣二『整形・

災害外科』二九(一〇)一四五~三

『切手にみる整形・災害外科学』(二一)全国安全週間」中谷欣二

『整形・災害外科』二九(一一)一五八~四

『切手にみる整形・災害外科学』(一二)ポリオ(Poliomyelitis)中谷欣二『整形・災害外科』二九(一二)一六八、(一三)一八〇六

『切手にみる皮膚科学』Rudolf Virchow (一八二一~一九〇二)』

小野公義『皮膚科の臨床』二八(一)九三

『切手にみる皮膚科学』アロエ』小野公義『皮膚科の臨床』二八

(二)一九六

『切手にみる皮膚科学・皮膚病の分類』小野公義『皮膚科の臨床』二八(三)二八九

- 「切手で見る皮膚科学 Mondor 病」小野公義『皮膚科の臨床』
二八(四)四七三
- 「切手で見る皮膚科学 Hippocrates と皮膚科学」小野公義『皮膚科の臨床』二八(五)五四四
- 「切手で見る皮膚科学 癩病院の閉鎖」小野公義『皮膚科の臨床』二八(六)六四八
- 「切手で見る皮膚科学 カビと皮膚病」小野公義『皮膚科の臨床』二八(七)七三四
- 「切手で見る皮膚科学 ブライマリ・ケア」小野公義『皮膚科の臨床』二八(八)七九一
- 「切手で見る皮膚科学 梅毒に病んだ Shubert」小野公義『皮膚科の臨床』二八(九)九〇〇
- 「切手で見る皮膚科学 ビタミンC」小野公義『皮膚科の臨床』二八(一一)一二五六
- 「切手で見る皮膚科学 光学顕微鏡」小野公義『皮膚科の臨床』二八(一二)一三三八
- 「切手で見る皮膚科学 化学療法」小野公義『皮膚科の臨床』二八(一三)一四七七
- 「切手と医学史 眼科(三)」福島義一『福島医師会報』(一八三)二一～二二
- 医学教育
- 「資料 兵庫県立神戸医学校・同薬学校資料(一)」宗田 一『医学史研究』(六〇)三九～四四
- 「最上医学所について」田中 直『山形医師会報』(四二二)

二二～二四

- 「下総佐倉に近代医学の火灯した順天堂」鈴木 侃『日経メディカル』一五(三)二〇六～二〇七
- 「搖籃期の近代医学教育 慈恵医大の前身にみる教育理念」鈴木 侃『日経メディカル』一五(四)一五〇～一五一
- 「金沢医学館の図面について」寺畑喜朔『日本医史学雑誌』三三(二)二〇四～二〇六
- 「明治時代初期における公立医学校の廃止」丸山知良『日本医史学雑誌』三三(二)二二五～二二七
- 「適塾に関する新史料について」杉立義一『日本医史学雑誌』三三(三)三二四～三三三
- 「幕末維新の日本における蘭学系の医学校」ハルム・ボイケルス、石田純郎『日本医事新報』(三三三)五七～五九
- 「医学部史料室」紹介(一)(二)島岡 眞『名大医学部学友時報』(四四一)五～八、(四四二)三～四
- 医学用語
- 「ことばの由来 語源瑣談 麻醉」岩月賢一『JOHNS』二(一)八六～八八
- 「ことばの由来 医療器具の語源(一)(二)」Hugh E. Wilkin-son、伊藤裕之訳『JOHNS』二(一)二〇〇～二〇一、(六)六九六～六九八
- 「ことばの由来 クエッケンステット試験とトビー・エーア試験の由来」鈴木安恒『JOHNS』二(三)三〇八～三二〇
- 「ことばの由来」ホモ・サビエンス」命名の由来とホ(オス)・

- 子(メス)の記号—リンネの業績より」飯田 収『JOHNS』
 二(四)四二八～四三〇
 「ことばの由来 語源瑣談—診断と治療」岩月賢一『JOHNS』
 二(五)五六四～五六六
 「ことばの由来 アルカブトン尿症および Ochronosis の語源と
 本症の原因」鈴木安恒『JOHNS』二(七)八二八～八三〇
 「ことばの由来 リウマチ(Rheumatism)とその周辺」飯田 収
 『JOHNS』二(八)九六八～九七〇
 「ことばの由来 語源瑣談 外科と手術」岩月賢一『JOHNS』
 二(九)一一〇八～一一一〇
 「ことばの由来 疼痛を表わす言葉の由来」Hugh E. Wilkinson.
 伊藤裕之訳『JOHNS』二(一〇)一三四六～一三四八
 「ことばの由来 Dysostosis Cleidocranialis の由来」鈴木安恒
 『JOHNS』二(一一)一四七八～一四八一
 「ことばの由来 ヘルペスの語源とその歩み」飯田 収『JOHNS』
 二(一二)一六〇六
 「病名の由来 恙虫(ツツガムシ)病」酒井シヅ 『Medical Te-
 chnology』一四(一)四八
 「病名の由来 痛風」酒井シヅ 『Medical Technology』一四
 (二)一六八
 「病名の由来 クル病」酒井シヅ 『Medical Technology』一四
 (四)三三三
 「病名の由来 産褥熱」酒井シヅ 『Medical Technology』一四
 (八)八一四
 「病名の由来 リウマチ」酒井シヅ 『Medical Technology』
 一四(一〇)一〇一四
 「病名の由来 フラリヤ」酒井シヅ 『Medical Technology』
 一四(一三)一三〇七
 「解剖学用語(ラテン語)について」島崎三郎『解剖学雑誌』
 六一(三)二一八～二二六
 医師会・学会
 「医師会史資料追補」中川長一『いわちどろ』(一四)一〇〇～
 一〇六
 「シーボルトシンポジウム参会記」石田純郎『科学医学資料研
 究』(一一)五
 「日本衛生学会の沿革(一)」西川瀨八『日本医史学雑誌』三三
 (一)一一一
 「日本医師会小史(三二) 大正期の医師数、医学校の推移」青柳
 精一『日本医師会雑誌』九五(一)一一七～一二九
 「日本医師会小史(三三) 北里と二つの新設医科大学」青柳精一
 『日本医師会雑誌』九五(三)五〇二～五〇四
 「日本医師会小史(三四) 大正から昭和へ」青柳精一『日本医師
 会雑誌』九五(六)九八〇～九八二
 「日本医師会小史(三五)(三六) 発足した健保制度と反
 対運動一、二、三」青柳精一『日本医師会雑誌』九五(八)
 一一九四～一二九六、(一〇)一八一四～一八一六、(一一)
 二二二五～二二二八
 「日本医師会小史(三七) 施行早々、健保法改正の動き」青柳精

「『日本医師会雑誌』 九六(一二) 一九二七～一九三〇

「日本臨床病理学会史」小酒井望『日本医事新報』(三三三二〇) 二二～三三

医学史一般

「医学史物語(中国篇) ことわざを通じての医者像」山本徳子

『Med Companion』 六(一〇) 一四二七～一四二八

「日本の医療文化史 明治期の官公立病院」宗田 一『Neue Informa』 一〇(一) 二七～三三

「日本の医療文化史 私立病院と私立医学校」宗田 一『Neue Informa』 一〇(二) 二七～三三

「日本の医療文化史 脚気と陸海軍」宗田 一『Neue Informa』 一〇(三) 二七～三三

「日本の医療文化史 脚気研究の進展」宗田 一『Neue Informa』 一〇(四) 二七～三三

「日本の医療文化史 免疫剤をめぐる」宗田 一『Neue Informa』 一〇(五) 二七～三三

「日本の医療文化史 伝染病研究所の発展と移管」宗田 一『Neue Informa』 一〇(六) 二七～三三

「日本の医療文化史 化学療法法の導入」宗田 一『Neue Informa』 一〇(七) 二九～三五

「日本の医療文化史 第一次大戦前後」宗田 一『Neue Informa』 一〇(八) 二七～三三

「日本の医療文化史 慈善的貧民済生」宗田 一『Neue Informa』 一〇(九) 二七～三三

「日本の医療文化史 労働者保護と疾病保険」宗田 一『Neue Informa』 一〇(一〇) 二七～三三

「世界の医療文化史(三三) 四、 転換の世紀 十字軍運動」宗田 一『Pharma Medica』 四(二) 一六八～一七三

「世界の医療文化史(三三) 四、 転換の世紀 十字軍騎士団の医療活動」宗田 一『Pharma Medica』 四(三) 一七〇～一七五

「世界の医療文化史(三四) 四、 転換の世紀 一二世紀ルネッサンス」宗田 一『Pharma Medica』 四(四) 一四一～一四五

「世界の医療文化史(三五) 四、 転換の世紀 知的回帰運動の拠点」宗田 一『Pharma Medica』 四(五) 一三五～一四〇

「世界の医療文化史(三六) (三七) 四、 転換の世紀サレルノ医学校」宗田 一『Pharma Medica』 四(六) 一六四～一六九、(七) 一四〇～一四四

「世界の医療文化史(三八) (三九) 四、 転換の世紀 両シチリヲ王国の医療法」宗田 一『Pharma Medica』 四(八) 一三七～一四二、(九) 一七七～一八二

「世界の医療文化史(四〇) 四、 転換の世紀 モンペリエ医学校」宗田 一『Pharma Medica』 四(一〇) 一三九～一四四

「世界の医療文化史(四一) 四、 転換の世紀 ビラノバのアルナルド」宗田 一『Pharma Medica』 四(一一) 一二七～一三三

「世界の医療文化史(四二) 四、 転換の世紀 中世大学の形成(統一)」宗田 一『Pharma Medica』 四(一二) 一四二～

一四七

「古代医療とその思想的背景(その一)」竹中普久『いずみ』

三三(三) 八〜九

「合衆国における医学史研究の発展、そのハイライト」(一)〜

(四)「アメリカ合衆国立医学図書館『科学医学資料研究』

(一四三) 一〜六、(一四四) 八〜二二、(一四五) 八〜二二、

(一四六) 八〜二二

「資料紹介」『文政十三年の尚歯会』末中哲夫、宗田 一『啓迪』

(四) 二五〜二九

「日本の医療 その問題点(一) 明治から第二次世界大戦前まで」
久保全雄『健会議』 三八(八) 八〜一五

「明治初年のプライマリ・ケア中西三折の『病客姓名録』より」

岡田安弘『人間の医』 二二(四) 二六四〜二六七

「長崎養生所の設立をめぐる長崎奉行の施策と幕府評議―幕末期
改革派官僚岡部長常の洋学導入―」沼倉延幸『青山学院大学文
学部紀要』(二八) 三五〜五三

「日本医療福祉事業史断想」酒井シツ『総合社会保障』二四(一)

四三〜四五、(二) 六〇〜六三、(四) 四八〜五一、(五) 五〇〜

五三、(六) 八六〜八九、(七) 五六〜五九、(八) 六四〜六七、

(一〇) 六八〜七二、(一一) 六二〜六五

「日本医療史再考(一) 近未来予測を含めて」広谷速人『島根医』

七(五) 七四〜七五

「明治初年の医師制度」深瀬泰旦『日本医学雑誌』 三二(二)

二一七〜二一九

「養老疾令合和御薬条復原の再検討」丸山裕美子『日本歴史』

(四五六) 一九〜三三

「金創医の出現と神保流金創療治に就いて」加藤豊明『北陸医史』

七(一) 五三〜五九

医の倫理

「医の倫理」中川米造『科学医学資料研究』(一四四) 一〜七

「いわゆる『バイオエシックス』の問いかけるもの」川喜田愛郎

『科学基礎論研究』 一七(三) 一二一〜一三六

医療器械

「世界のME機器の歴史 メス(その三) 眼科用」酒井シツ『カ
レントセラピー』 四(三) 三六一〜三六五

「世界のME機器の歴史 膀胱結石の手術道具」酒井シツ『カレ
ントセラピー』 四(五) 六三五〜六三八

「穿刺吸引細胞診の採取器具などの進歩」庵原昭一『医療』 四〇

(四) 三〇一〜三〇九

「医科器械の歩みを一堂に」鈴木 侃『日経メディカル』 一五

(一〇) 一九八〜一九九

衛生・公衆衛生学史

「B.W. McCreadyとその労働衛生に関する論文」佐藤 元『医
学史研究』(六〇) 二六〜三一

「生野銀山の塵肺の歴史一八〇〇年代から一九八〇年代まで」三
浦豊彦『日本医学雑誌』 三二(二) 二一九〜二二二

「目で見る労働と健康の歴史(その一)―古代から中世へ―」三浦

豊彦『労研維持会資料』(一〇六六・一〇六七)

豊彦『労研維持会資料』(一〇六六・一〇六七)

「労働衛生の古典とその著者 日本の工場法・成立と性格(二〇) — 影響のあった三人の素描 —」橋本重遠『労働衛生ジャーナル』(一一三)三

「明治前期に於ける日本政府の工場労働者の労働衛生に対する態度に就いて」福留祥子『労働科学』六二(一)七七~九二

「徳川時代の熱中症予防と二〇世紀初頭の高湿職場の食塩補給の歴史」三浦豊彦『労働科学』六二(八)三七五~三八九

解剖学史

「フランスの解剖書を使った幕末維新の解剖学講義について」石田純郎『適塾』(一八)一五~二四

「フランスのテキストに見る脳幹図」田島重孝『日仏医』一八(一)一一~三三

眼科学史

「一九世紀に日本眼科学に与えたオランダ医学の影響」H・E・ヘンケス述 石田純郎訳『医学史研究』(五九)八三〇~八三三

「天保時代の眼科書に記載された網膜芽細胞腫と思われる症例について(会)」金子明博他一名『眼科臨床医報』八〇(二)三〇七~三〇八

「眼科臨床医報八〇年の歩み」三國政吉『眼科臨床医報』八〇(一〇)二二二三~二二三四

「医学史上に散見する眼科(二六)近世ヨーロッパ」飯沼 巖『銀海』(一〇八)四三~四五

「文庫の窓から 鵬氏新精眼科全書(三)」中泉行信、中泉行史、

斎藤仁男『臨床眼科』四〇(二)六四~六五

「文庫の窓から 施里烏私眼科書と施里烏斯眼科全書(一)(二)」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(二)一九〇~一九一、(三)二九〇~二九一

「文庫の窓から 外科必読 質篤満眼門(一)(二)」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(四)四二四~四二五、(五)五五六~五五七

「文庫の窓から 眼科新説 名銀海金針」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(六)六九六~六九七

「文庫の窓から 眼科真筌」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(七)八三六~八三七

「文庫の窓から 眼科要略」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(八)九九四~九九五

「文庫の窓から 眼科摘要」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(九)一一〇~一一一

「文庫の窓から 眼科実地此事須知篇と視力乏弱病論」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(一〇)一一七六~一一七七

「文庫の窓から 斯弓歇索護眼科書(仮称)」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四〇(一一)一二八〇~一二八一

「世界と日本の看護史(一) 欧米編」遠藤恵美子、山根信子『クニカルスタディ』七(六)付録一~一六

「世界と日本の看護史(二) 日本編」遠藤恵美子、山根信子『クニカルスタディ』七(六)付録一~一六

「世界と日本の看護史(三) 日本編」遠藤恵美子、山根信子『クニカルスタディ』七(六)付録一~一六

「世界と日本の看護史(四) 日本編」遠藤恵美子、山根信子『クニカルスタディ』七(六)付録一~一六

リニカルスタディ』七(七)付録一〜一六

「米国プレスビテリアン・ミッションの往復書簡にみる桜井女学校付属看護婦養成所の経緯(一) 桜井女学校の誕生とマリア・T・ツルーと矢嶋椋子」高田あつ子『看教』二七(七)四四四〜四五〇

「米国プレスビテリアン・ミッションの往復書簡にみる桜井女学校付属看護婦養成所の経緯(二) 看護婦養成所の運営をめぐる」高田あつ子『看教』二七(八)五一〇〜五一五

「米国プレスビテリアン・ミッションの往復書簡にみる桜井女学校付属看護婦養成所の経緯(三) 衛生園の設立と閉園に至るまで」高田あつ子『看教』二七(九)五七四〜五七八

「長野慈恵医館とミス・スミス」小泉典章『看護教育』三八(七)一三二〜一三七

「ナイチンゲールとその時代 ナイチンゲールと一九世紀のイギリス社会」増子忠道、藤井博之、川島みどり『看護実践の科学』一一(六)一八〜三二

「ナイチンゲールとその時代 ナイチンゲールの思想と背景、看護論」雨宮久子『看護実践の科学』一一(六)三四〜三七

「ナイチンゲールとその時代『フロレンス・ナイチンゲールの生涯』を読んで―その生い立ちと看護を天職として選んだ背景をさぐる」水河三保子『看護実践の科学』一一(六)三八〜四一

「看護の歴史」小玉香津子『教と医』三四(三)二〇二〜二〇八

「随想 看護教育」酒井シヅ『総合社会保障』二四(九)六二

〜六五

「北陸地方の看護の発展(その三) 石川県における看護教育機関の変遷」荻野妙子、金川克子、天津栄子、泉キヨ子『北陸医学』七(二)四九〜五一

教室史

「満州医科大学解剖学教室の歴史」福山右門『解剖学雑誌』六一(二)二九〜三二

軍陣医学史

「日本陸軍軍陣医学 航空医学(附) 厚生省新設」宮本忠孝『山形医師会報』(四二四)二四〜三二

「鷗外の「陸軍衛生制度史」富樫雅生『山形病医誌』二〇(一)一八四〜一八九

「第一次大戦時の英米「ショック委員会」とその周辺」栗本宗治『日本医学雑誌』三三(二)二〇八

「日清戦争における野戦病院について」黒沢嘉幸『日本医学雑誌』三三(一)四三〜四九

「第二次世界大戦末期のルソン島における日本陸軍の衛生状況と米軍の人的行為」守屋 正『日本医学雑誌』三三(二)二〇八〜二〇九

「陸軍戸山学校について」清水勝嘉『日本医学雑誌』三三(二)二〇九〜二一一

「陸軍軍医学校史(第二報) 昭和一三年および一四年」清水勝嘉『防衛衛生』三三(六)二二五〜二二三

「陸軍軍医学校史(第三報) 昭和一五年」清水勝嘉『防衛衛生』

三三(六) 二二五～二二九

外科学史

「外科集談会の記録」石川浩一『日本臨床外科医学会誌』四七(九) 一一六五～一一七二

「手術室の歴史」都築正和『オペレーティング』一(一) 四六～五〇

産婦人科学史

「助産婦の歴史(三六)」石原 力『ペリネイタルケア』五(八) 八八一～八八二

「『医心方』にみられる月経異常の治療」松永 勝『日本医史学雑誌』三三(二) 一九二

歯学史

「口蓋裂を人工蓋で閉塞する方法の史的研究」本間邦則『日本医史学雑誌』三三(二) 二〇〇～二〇一

「第四回内国勸業博覧会歯科出品物の審査結果 第二報 歯磨について」大橋正敬、仁平真佐秀、長谷川清、片山幸太郎、飯島清『日本歯科医史学会誌』二二(二) 七九～八四

「第四回内国勸業博覧会歯科出品物の審査結果 第三報 歯ブラシ及び楊枝について」大橋正敬、後藤尚久、竹井満久、菅原明喜、飯島 清『日本歯科医史学会誌』二二(二) 八五～八八

「中国における『齲』の意味に関する医史的考察」戸出一郎、新藤順子『日本歯科医史学会誌』二二(二) 八九～九五

「中原市五郎著『兒童ノ歯牙ノ關係』谷津三雄、江川裕之、吉村宅弘、石橋 肇『日本歯科医史学会誌』二二(二) 九六～

一〇一

「歯科研究会月報第四九号(明治二八年一月)から第五二号(明治二八年四月)の内容」谷津三雄、米長悦也、渋谷 敏、吉田直人『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一〇二～一〇七

「パレ全集 第一二版にみられる歯科領域の記述(八)(九)」高山直秀『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一〇八～一一〇、(三) 二〇七～二〇九

「フォンシャル手稿文の分析(三)(四)(五)(六)(七)」高山直秀『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一一一～一一三、(三) 二一九～二二一、(四) 二三八～二四〇、一三(一) 四七～五一、(二) 一〇三～一〇五

「ジョン・ハンター著『人の歯の博物学』第三版(一七七八年刊について)」高山直秀『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一一四～一一七

「邦訳『人の歯の博物学』(一)(二)(三)(四)」高山直秀『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一一八～一二一、(四) 二四三～二四五、一三(一) 五五～五七、(二) 一〇〇～一〇二

「一、東京独案内(明治二三年四月出版)にみられる官府私立学校」北嶋まつ子、武藤優子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一二二

「二、『医心方』における口腔疾患の分類について」戸出一郎『日本歯科医史学会誌』二二(二) 一二三～一二三

「三、第一回日本医学会誌(明治二三年)と第二回日本医学会誌(明治二六年)にみられる麻酔と歯科に関する発表」坂本嘉久、

吉井秀鏘、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)

一二三～一二四

「皇紀式千六百年記念歯科医学会会誌について」渋谷 敏、松本好正、渋谷幸男、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二四

「竹柄齒刷子 補遺」下総高次 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二四～一二五

「形成外科と顎面補綴のはじまり」新藤恵久 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二五～一二六

「口蓋栓塞子の歴史について」本間邦則 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二六～一二七

「針か鍼かの名称(文献的考察)」原田さえ子、大和和久、小池陽一郎、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二七～一二八

「一八四七年頃の歯痛に関する風刺絵」石橋 肇、村木春長、金子賢司 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二八

「フォシャル手稿の検討」高山直秀 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二八～一二九

「ライオン 歯磨口腔衛生部主催第二回学校歯科医講習会講演集(昭和五年一月、東京市において開催)について」吉村宅弘、大場重信、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三〇

「Fauchard手稿を見た」中原 泉 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一二九～一三〇

「高山歯科医学院講義録の書誌学」森山徳長、石川達也、長谷川正康 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三〇～一三一

「ポスターの歴史と第一回ムシ歯予防デーのポスターについて」新藤恵久、高槻正男、遠藤吉雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三二

「第二回ムシ歯予防デー(昭和四年六月四日)の講演資料」米長悦也、古瀬信久、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三二～一三三

「後水尾天皇の御歯」上野乃武弥、田中照代、杉本茂春 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三三～一三五

「明治年代の歯科雑誌にみられる救急蘇生法」江川裕之、江川為明、谷津三雄 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三五～一三六

「第四回内国勸業博覧会歯科出品物の審査報告 第二報、歯磨、歯ブラシおよび楊枝について」大橋正敬 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三六～一三七

「お歯黒の里 香登をたずねて」松田信隆 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三七

「甘肅彩陶」の鋸歯紋について 歯を洗う 中国考古学に一言あり 杉本茂春 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一三七～一四一

「日本衛生学会雑誌(明治三十七年会) 創刊号から見た衛生学会の屋敷について」岡田治夫 『日本歯科医史学会会誌』 一一(一)一四一

- 「五〇年前にもあった歯科医師の過剰問題」長谷川俊夫『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四一
- 「日本海軍歯科医科士官の歴史 日露戦争と歯科医」山崎 智『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四二～一四三
- 「笠森お仙と本柳屋お藤」本山佐太郎『日本歯科医史学会誌』 一一(一) 一四三～一四四
- 「Dr. C.E. Stuart からの手紙」永田和弘『日本歯科医史学会誌』 一一(一) 一四四～一四五
- 「高山歯科医学院の学制・教科書・教授陣について」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、高木圭二郎『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四五～一四六
- 「家庭と学校 口腔衛生 ライオン歯磨本舗(大正一二年四月刊)」落合後輔、清沢美智子、藤井敏博、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四六～一四七
- 「内務省衛生局編纂『歯と健康』仁丹の歯磨本舗発行(大正一三年一二月刊)」、武田和久、大島安晴、鈴木邦夫、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四七
- 「東京府歯科医師会編『府内小学校ニ於ケル口腔衛生ニ関スル調査』(昭和四年一二月現在)」、吉井秀錡、吉田直人、八木千恵子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一一(二) 一四七～一四八
- 「Folklore of the teeth」にみる楊枝その(一)～(三)」「丹羽源男『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一五九～一六四、(四) 一一七～一二二、一二三～一二七
- 「歯病の外因としての『風』に関する考察」戸出一郎、新藤順子『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一六五～一七三
- 「歯の解剖用語に冠せられている研究者名について」本間邦則『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一七四～一八二
- 「高山歯科学院の学制・教科書・教授陣などについて」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、高木圭二郎『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一八三～一九〇
- 「高山歯科医学院講義録の書誌学」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一九一～一九八
- 「最初に英語で書かれた歯科医学書(その一) Charles Allen 著『The Operator for the Teeth の書誌学』森山徳長『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 一九九～二〇六
- 「ペレ著『欠損を補整する方法』(三)(四)(最終回) 高山直秀『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 二一〇～二二二、(四) 二四一～二四二、一三(一) 五二～五四
- 「フォンシャル手稿の検討、手稿の構成について」高山直秀『日本歯科医史学会誌』 一一(三) 二二三～二二八
- 「ゲーテと顎間骨」本間邦則『日本歯科医史学会誌』 一一(四) 二四六～二四九
- 「歯の硬組織の用語について」本間邦則『日本歯科医史学会誌』 一一(四) 二五〇～二五一
- 「日本歯科医学会史(第一報)」谷津三雄、渋谷敏、山口秀紀『日本歯科医史学会誌』 一一(四) 二五二～二五五
- 「医談にみられる歯科ならびに麻醉に関する記事について(第一報)」谷津三雄、米長悦也、石橋 肇『日本歯科医史学会誌』

一三(四)二五六～二五八

「富士川游著、東京医事一覽(明治二三年三月二七日出版)にみられる高山歯科医院」北島まつ子、武藤優子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)五～六

「内務省衛生局雑誌にみられる医師人名」山口秀紀、江川為明、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)六～七

「医心方」における口腔疾患の引用文献について」戸出一郎『日本歯科医史学会誌』一三(一)七～八

「G.V. Black の分類」か？」中原 泉『日本歯科医史学会誌』一三(一)八、(二)七～七四

「仏典(仏教医学)にみえる齲齒とその療法」杉本茂春『日本歯科医史学会誌』一三(一)八～九

「東京歯科医学院の学制・教授陣・教科書等について」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎『日本歯科医史学会誌』一三(一)九～一

「東京歯科医学院講義録(第一輯)の書誌学的研究」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会誌』一三(一)一

「雑誌 顕微鏡にみられる歯科の記載」米長悦也、許 國雄、谷津徳男、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)一

「高山歯科医学院編、歯科手術論、完の内容」落合俊輔、谷津三雄、池田 直『日本歯科医史学会誌』一三(一)一三

「木床義歯における人工歯の結合について」本山佐太郎『日本歯

科医史学会誌』一三(一)一四

「パレ全集、第一二版にみられる歯科領域の記述補遺」高山直秀『日本歯科医史学会誌』一三(一)一四

「G.V.ブラックの齲蝕病因論」森山徳長、太田功正、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会誌』一三(一)一四～一五

「日本歯科医学会沿革概要(日本歯科医学会編、大正一二年三月刊)」吉井秀鑄、武田和久、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)一五～一六

「第四回内国勸業博覧会における焼石膏出品物とその審査結果」大橋正敬『日本歯科医史学会誌』一三(一)一六～一七

「大日本歯科医学会編、歯科医籍第壹巻(明治三六年末現在)にみられる歯科医師名」坂本嘉久、江川裕之、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)一六～一七

「第二回日本連合医学会誌(明治三九年四月)と歯科学部会」洪谷 鉞、村本春長、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』一三(一)一七～一八

「大正時代の歯科開業試験について 歯科開業試験答案集より」渡辺富士夫『日本歯科医史学会誌』一三(一)一八

「沖繩県座間味村における離島診療記録」鈴木 章、稲葉 繁、那波明夫『日本歯科医史学会誌』一三(一)一八～一九

「沖繩県座間味村に伝わる民間療法「ちみやち」について」那波明夫、鈴木 章『日本歯科医史学会誌』一三(一)一九～二〇

「石原久先生講述 口腔科学講義全について」吉村宅弘、大場重

- 信、松本好正、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一) 二〇～二二
- 「日本海軍歯科医士官の歴史(Ⅲ)第一次世界大戦と歯科医師」山崎 智『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二二
- 「エレベーターの変遷」下総高次『日本歯科医史学会誌』 一三(一) 一一一
- 「木床義歯の起原を訪ねて 柏崎市の斑紫銅」新藤恵久『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二二三
- 「歯科器械の元祖として」長谷川俊夫『日本歯科医史学会誌』 一三(一) 一一一
- 「シキライと原著無痛手術全について」石橋 肇、金子賢司、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二二三～二四
- 「明月記」にみえる字を検索する「杉本茂春『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二四～二五
- 「Bonwill 咬合器の構造と構想」永田和弘、藤枝 晃、大森康弘『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二八
- 「小島原泰民とその訳(著)書(第二報)」吉田直人、小池陽一郎、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二八～二九
- 「福島県医襍録(明治二八年刊)にみられる歯科医師」谷津三雄、出地 弘、新國俊彦『日本歯科医史学会誌』 一三(一)二九～三〇
- 「三郡共立福島病院沿革誌(全七) 明治二八年五月刊について」谷津三雄、古城由美子、庵原正彦『日本歯科医史学会誌』 一三(一) 一一〇～一一一
- 「医談にみられる歯科ならびに麻醉に関する記事について(第二報)」谷津三雄、米長悦也、石橋 肇『日本歯科医史学会誌』 一三(一)四〇～四三
- 「最初に英語で書かれた歯科医学書(その二)」著者 Charles Allen と、その背景 York の理髪外科医のギルドについて一森山徳長『日本歯科医史学会誌』 一三(一)五八～六四
- 「第四回内国勸業博覧会における焼石膏出品物とその結果」大橋正敬、仁平真佐秀、長谷川清、竹井満久、飯島清人、深瀬康公『日本歯科医史学会誌』 一三(一)七五～八〇
- 「最初に英語で書かれた歯科医学書(その三) Charles Allen: The Operator for the Teeth の邦訳と注解(その一)」森山徳長『日本歯科医史学会誌』 一三(一)八一～八四
- 「富士川游著、東京医事一覽(明治二三年三月二七日出版)にみられる高山歯科医学院」北島まつ子、武藤優子、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)八五～八九
- 「日本歯科医学史(第二報)」谷津三雄、吉井秀鏑、武田和久、渋谷幸雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)九〇～九三
- 「石原久先生講述 口腔科学講義全について」吉村宅弘、大場重信、松本好正、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)九四～九六
- 「シキライと原著 無痛手術全について」石橋 肇、小池陽一郎、金子賢司、谷津三雄『日本歯科医史学会誌』 一三(一)九七～九九

史 跡

「神経学墓参 その一 バビンスキーの墓を訪ねて」岩田 誠
『神経内科』 二四(一)八六～八九

「神経学墓参 その二 シャルコーの墓を訪ねて」岩田 誠『神
経内科』 二四(二)一九六～一九八

「神経学墓参 その三 デジエリンの墓を訪ねて」岩田 誠『神
経内科』 二四(三)三〇六～三〇九

「『金華山道碑』に刻された病氣予防食について」那須 務、吉
崎文彦、久道周次『日本薬史学会』 二二(一)二八～三二

疾病史

「医学史に於ける瘡及び瘡の周辺 一九世紀中葉以前」日比野進
『Oncologia』 (一七)二〇～三〇

「難病研究の歩み」吉利 和『からだの科学』臨増(難病の辞典)
二～九

「動脈硬化の退縮研究の歴史」沼野藤夫『クリニシャン』 三三
(二)二二九～二三五

「リウマチの歴史」佐々木智也『医界新聞』 (一七二〇)二～三
「広島・長崎の原爆放射線影響研究―急性死・急性傷害の過小評
価―」中川保雄『科学史研究』 二五(一五七)二〇～三三

「バーシャー病の今昔」石川浩一『外科』 四八(八)八一四～
八一七

「『B型肝炎のすべて』オーストラリア抗原発見とその歴史(会)
Baruch S. Blumberg『肝・胆・脾』 一三(三)六〇七～

六一七

「昔の結核、今の結核 結核制圧の歴史と将来展望」島尾忠男
『労働の科学』 四一(九)一〇～一四

耳鼻咽喉科

「耳鼻咽喉科領域における中国医学序説 中国医学の歴史」藤井
一省『カレントテラピー』 四(九)一一三～一一三四

「耳鼻咽喉科領域における中国医学序説 中国医学(湯液医学)
の基本的概念」藤井一省『カレントテラピー』 四(一〇)
七五～七八

種痘史

「牛痘法の北陸地方への普及について」正橋剛二、松田健史『北
陸医史』 七(一)三四～三五

獣医学史

「メルボルン獣医医科大学とW・T・ケンダル(一)」中村洋吉『日
本獣医学雑誌』 (二二)三～二〇

「動物検疫からみたジャージー牛の輸入(一)」矢崎信夫『日本
獣医学雑誌』 (二二)二一～三〇

「明治期前の狂犬病史考」坂本 勇『日本獣医学雑誌』 (二二)
三一～三六

「『下総御料牧場ができるまで』(八)―アップ・ジョンズを中心
とするカリフォルニア(開拓前後)の高産業(その一)―」谷垣
康弘『日本獣医学雑誌』 (二二)三七～四五

「日本獣医学畜産大学所蔵 『獣医学稀こう書目録』」黒川和雄『日
本獣医学雑誌』 (二二)四六～四九

最 簡

- 「ボードイン書簡について(第一報)」石田純郎、H・ポイケルス『日本医史学雑誌』三三(二)一八〇～一八二
「鑄江土屋家文書」岩治勇一、白崎昭一郎『北陸医史』七(一)四六～四八

書 誌 学

- 「古典あれこれ Bartolomeo Eustachio の仕事」酒井シヅ『JOHNS』二(一)九〇～九二
「古典あれこれ リットルと鼻出血」飯沼壽孝『JOHNS』二(一)二〇四～二〇五
「古典あれこれ Antonio Valsalva(一六六五～一七二三)著“De Aure Humana Tractatus”」酒井シヅ『JOHNS』二(三)四三二～四三四
「古典あれこれ シュミットの上顎洞穿刺」飯沼壽孝『JOHNS』二(五)五六八～五六九
「古典あれこれ Wegener 肉芽腫」堀内正敏『JOHNS』二(六)七〇〇～七〇一
「古典あれこれ プルサック (Purussak) の頃」飯沼壽孝『JOHNS』二(七)八三二～八三三
「古典あれこれ 最初の耳科学書の著書 Joseph Guillard Du Verney(一六四八～一七三〇)」酒井シヅ『JOHNS』二(八)九七二～九七三
「古典あれこれ 側頭の上胞の組織発生」堀内正敏『JOHNS』二(九)一一二～一一三

「古典あれこれ von Trolisch のこと」飯沼壽孝『JOHNS』二(一〇)一三五〇～一三五二

「古典あれこれ Giovanni Battista Morgagni(一六八二～一七七二)」酒井シヅ『JOHNS』二(一一)一四八二～一四八四
「古典あれこれ Torynbecq と鼓膜」飯沼壽孝『JOHNS』二(一二)一六一〇～一六一一

「医史学名著解題一〇 Jacob Berengario (Barigazzi) da Carpi の解剖書」酒井シヅ『医学図書館』三三(一)二九～三一
「医史学名著解題一一 エドワード・ジェンナー『牛痘の原因及び作用に関する研究』」酒井シヅ『医学図書館』三三(一)九七～九八

「J・ヘレンガリオ・ダ・カルピ『人体解剖学綱要』」酒井シヅ『科学医学資料研究』(一四一)四～六

「ネメシウス『人間の本性について』」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一四一)七

「ハンジヤミン・ラッシュ『フィラデルフィア市の黄熱病流行報告』」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一四一)八

「M・フォスター、E・R・ランケスター編『トーマス・ヘンリー・ハックスレー科学論文集』(一八九八～一九〇三)」木村陽二郎『科学医学資料研究』(一四一)一～三
「アレクシス・カレル(Alexis Carrel)著『人間、この未知なるもの』(Man, the unknown 一九三五)のオリジナル版を読んで」古川哲雄『科学医学資料研究』(一四二)四～五

「ドンデルス『屈折と遠近調節の異常』」石田純郎『科学医学資料研究』(一四二)四～五

料研究』(一四二)六〇八

「ビネル」疾病記述論』(一八〇七、一八一八) 梶田 昭『科学医学資料研究』(一四二)九〇一〇

「ビシヤ」諸膜論』梶田 昭訳『科学医学資料研究』(一四五)

一〇七、(一四七)八〇二

「ヨハネス・ミュラーの『人体生理学ハンドブック』とマーシャル・ホール」作田 学『科学医学資料研究』(一四八)一〇四

「ヨハン・ヤコブ・ウォイツ著『医薬宝函』」矢部一郎『科学医学資料研究』(一四八)一一〇二

「ヘルムホルツの『生理光学提要』について(八)」山口宙平『科学医学資料研究』(一四九)一〇六

「K・ファイバー著『疾病記述』」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一五一)一〇二

「H・シュトルック編『帝国衛生院紀要』第一、二巻」川喜田愛郎『科学医学資料研究』(一五一)二〇四

「原典・古典の紹介 Kayser-Fleischer 角膜論」古川哲雄『神経内科』二四(一)八二〜八五

「原典・古典の紹介 アメリカ神経学の最初の教科書—A Treatise on the Diseases of the Nervous System, by W.A. Hammond

—」森若文雄、田代邦雄『神経内科』二四(三)三〇四〜三〇五

「原典・古典の紹介 “Numb Chin syndrome” に関する Charles Bell の最古の記載 (一八三〇)」古川哲雄『神経内科』二五

(一)一九二〜一九三

「原典・古典の紹介 Sir Charles Bell 著 “The Hand”

(一八五二)」古川哲雄『神経内科』二五(三)三〇三〜三〇六
「異本病草紙」の古摸本」宗田 一『第一八回杏雨書屋特別展示会』

「長崎における医学雑誌の歴史と現状」池田高良『長崎医学会誌』六一(一)一〜三

「原著を採る Parry 病(眼球突出性甲状腺腫)」酒井シツ『内科』

五七(一)五四
「原著を採る Heberden's Asthma (狭心症)」酒井シツ『内科』

五七(二)三六〇
「原著を採る 打診法の最初の論文」酒井シツ『内科』五七(三)四九八

「原著を採る Glisson の “de rachitide”」酒井シツ『内科』五七(四)七三四

「原著を採る Corrigan 病(大動脈弁不全症)」酒井シツ『内科』五七(五)九四〇

「原著を採る Argyll Robertson 現象」酒井シツ『内科』五七(六)一〇八四

「原著を採る Thomas Sydenham と痛風」酒井シツ『内科』五八(一)八八

「原著を採る Kaposi 肉腫」酒井シツ『内科』五八(二)六八

三
「原著を採る Reiter 症候群」酒井シツ『内科』五八(三)八

八〇

- 「原著を採る Falloot の四徴候」酒井シヅ『内科』五八(四) 一〇四九
- 「原著を採る Willis (糖尿病)」酒井シヅ『内科』五八(五) 一一二八
- 「原著を採る Raymond Vioussense (一六三三～一七一五)」酒井シヅ『内科』五八(六)一三六八
- 「最古の医学全書『医心方』(上)(下)」杉立義一『日経メディカル』一五(七)一九〇～一九一、(九)一八六～一八七
- 「小品方」序説 現存した古卷子本 小曾戸洋『日本医史学雑誌』三三(一)一～二五
- 「医心方」引用文献名索引 小曾戸洋『日本医史学雑誌』三三(一)八九～一八、(三)三三三～三五二
- 「わが国の『脚気菌』研究の系譜」村松康弘、丸井英二『日本医史学雑誌』三三(一)二六～四二
- 「ケイシーチャトルワースの『マンチェスターの木綿工業で働く労働階級の道徳的・身体的状態』(一八三三)について」遠藤幸孝『日本医史学雑誌』三三(一)一六一～一六三
- 「五十嵐ぶん水編の民間産科指導書『安産仙翁邦言教諭』について総括」玉手英典『日本医史学雑誌』三三(一)一六六～一六七
- 「Remmein の解剖書とその訳書について」酒井シヅ『日本医史学雑誌』三三(一)一七九
- 「『多聞院日記』に現れる風病の検討」中村 昭『日本医史学雑誌』三三(一)一八四～一八六

- 「医心方」の伝写(Ⅵ) 卷二十二について」杉立義一『日本医史学雑誌』三三(一)一九〇～一九二
- 「医心方」における口腔疾患の分類と文献引用について」戸田一郎『日本医史学雑誌』三三(一)一九三～一九五
- 「小品方」の処方について」広田睦子『日本医史学雑誌』三三(一)一九五～一九七
- 「書籍目録に見られる十七世紀後半の流通医書」平馬直樹『日本医史学雑誌』三三(二)一九七～一九九
- 「内務省衛生局雑誌の内容」谷津三雄『日本医史学雑誌』三三(二)二一三～二四
- 「尊経閣文庫所蔵の『黄帝内经明堂』最善古鈔本 判明した卷首の欠字」小曾戸洋『日本医史学雑誌』三三(一)二三四～二三六
- 「『図経本草』所引の『張仲景医書』について」真柳 誠『日本医史学雑誌』三三(二)二三八～二四〇
- 「深根輔仁『掌中要方』について尊経閣文庫所蔵の古文書中に残る逸文」石原 武、小曾戸洋『日本医史学雑誌』三三(一)二四六～二四八
- 「『呉氏本草』について」三井駿一『日本医史学雑誌』三三(一)二五〇～二五一
- 「河内金剛寺新出の鎌倉時代書写『医心方』卷第十三について」東野治之『日本医史学雑誌』三三(三)二五九～二六七
- 「流布本『大同類聚方』における麻疹と痘瘡」中村 昭『日本医史学雑誌』三三(三)二六八～二八〇

「ベルツの日記」と漢方」寺師睦宗『日本医事新報』（三二二〇）一一六

「土肥慶蔵『日本皮膚病徴毒図譜』に就て」長門谷洋治『日本医事新報』（三二四九）九七～九八

『傷寒証治準繩』の著者・内容等」小曾戸洋『日本医事新報』（三二五四）一三五

「エドワード・ハートレイ・アングルの著作物の書誌学的・編集史的研究」森山徳長『日本歯科医学会誌』一三（一）二五～二六

「レオ・カンナー著『歯の民族学』の書誌学」森山徳長『日本歯科医学会誌』一三（一）二七～二八

「加藤讓齋と『医療手引草』が目黒道琢『養英館療治雑話』に与えた影響について」稲木一元、杵淵 彰、石野尚吾他『日本東洋医誌』三七（一）七三～八〇

「古典をたずねて Sturge-Weber 症候群（その一）」（その二）」竹下研三『脳と発達』一八（一）七六～七八、（二）一四九～一五〇

「土肥慶蔵と『日本皮膚病徴毒図譜』」長門谷洋治『皮膚病診療』八（一一）一〇八～一〇九三

「S.F. Klijnsma, F.P. Mascheck 共著の Mineur en Sappeurkunst — 大野藩の蘭言翻訳活用の一考察 —」岩治勇一『福井県医師会だより』（二九〇）二二～二三

「向井元升著『庖厨備用倭名本草』について」加藤豊明『北陸医史』七（一）一四～二六

「医療の歴史『現代医学概論』より」高橋暁正『薬のひろば』（八七）五三～六八

「青木昆陽の『阿蘭陀文字大通辞答書』と『和蘭文字略考』について成立年代を繞って」吉田厚子『洋学史研究』（三）一〇～二三

「史料紹介『海内蘭学諸家名鑑』について」片桐一男『洋学史研究』（三）二四～三五

「史料紹介『佐賀鍋島元侯爵家蘭書目録』の挿入史料」片桐一男『洋学史研究』（三）三六～三九

「史料紹介 小浜藩海防関係史料『寛政度』」佐藤隆一『洋学史研究』（三）四〇～五八

「原典を繙く『Minzai 症候群』原著の翻訳を終えて」石川 功『臨床外科』四一（五）六一九～六二二

「原典を繙く Minzai 症候群」石川 功『臨床外科』四一（一）六一～六三、（二）二三～二五、（四）四四九～四五二

小児科学史
「育児の今昔（会）」内藤寿七郎『小児内科』一八（一二）二〇六～二〇七五

「歩行器普及についての一考察」加藤 翠『日本女子大学紀要家政学部』（三三三）一～九

神経学史
「シデナム協会と神経内科学」作田 学『科学医学資料研究』（一四三）七～一

「深部腱反射検査 W.R. Gowers と S.W. Mitchell の業績」森

若文雄、田代邦雄『神経内科』二四(四)四二〇～四二三

「吉村善作博士と Chaddock 反射」田代邦雄『神経内科』二四

(五)五二二～五二六

「Lasque—L.K. Lazarevic の業績」森若文雄、田代邦雄『神経内科』二五(三)三〇七～三〇九

「Hofmann 反射—その原典とアメリカ神経学の貢献」田代邦雄、森若文雄『神経内科』二五(四)四二二～四二四

「Horner 症候群—Edward Selleck Hare 及 Silas Weir Mitchell の業績」森若文雄、田代邦雄『神経内科』二五(五)五一六～五一八

整形外科学史

「整形外科を育てた人達 Nikolai Ivanovich Pirgoff

(一八二〇～一八八一)」天児民和『臨床整形外科』二二(一)八四～八七

「整形外科を育てた人達 Pierre-Joseph Desault」天児民和『臨床整形外科』二二(一)一四八～一五一

「整形外科を育てた人達 James Syme (一七九九～一八七〇)」天児民和『臨床整形外科』二二(三)二八四～二八七

「整形外科を育てた人達 (三七) Lord Joseph Lister (一八二七～一九二二)」天児民和『臨床整形外科』二二(五)六〇〇～六〇三

「整形外科を育てた人達 (三八) Robert Chesher (一七五〇～一八三二)」天児民和『臨床整形外科』二二(六)六九八～七〇一

「整形外科を育てた人達 Alfred Schanz (一八六八～一九三二)」

天児民和『臨床整形外科』二二(七)八三八～八四一

「整形外科を育てた人達 Sir William Macewen」天児民和『臨床整形外科』二二(八)九三〇～九三三

「整形外科を育てた人達 Prof. Dr. Theodor Kolliker (一八五二～一九三七)」天児民和『臨床整形外科』二二(九)一〇三八～一〇四一

「整形外科を育てた人達 Dame Agnes Gwendoline Hung (一八六七～一九四二)」天児民和『臨床整形外科』二二(一〇)一一六二～一一六五

「整形外科を育てた人達 Johann Friedrich August von Esmerich (一八一三～一九〇八)」天児民和『臨床整形外科』二二(一一)一二六六～一二六九

「整形外科を育てた人達 Prof. Dr. Hans Spitzzy (一八七二～一九五六)」天児民和『臨床整形外科』二二(一二)一三五八～一三六一

「わが国における骨移植の発展の足跡」真角昭吾『臨床整形外科』二二(一〇)一一九～一二七

精神医学史

「精神医学史の比較研究(一)」松田方一『医学史研究』(六〇)一～一〇

「人狐辨惑談」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)一～一七

「精神鑑定史資料『東京医事新誌』記事」『呉秀三先生記念精神

科医療史資料通信』(六)一八

『読質新聞』記事 人類最大暗黒界癲癩病院(その一) 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)三五～四〇

『日本精神病医協会のこと』小峯和茂 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)六一

『実験靈能 難病黒焼療法』黒焼類値段表』角田松壽 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(八)三八

『我国裁判医学の起源及発達』安藤卓爾 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)一九～二二

『精神の病理』竹内楠三 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)二三～三四

『精神衛生法改正をめぐって(上) 昭和四〇年改正の問題点、(下) 現在の問題点』岡田靖雄 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)四一～四四

『ガイドラインをめぐって 患者中心の精神科医確立に向けて』吉岡真二 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六)四五～四六

『日本精神神経学会の奮起と結集を願う』吉岡真二 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(六四)七～四八

『麻痺狂ト黴毒トノ關係』榊 倅 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)一～五

『癲狂院に於る精神病看護学』榊保三郎 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)六～一四

『相馬事件』探書記』岡田靖雄 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)一五～一七

『相馬家紛擾之顛末(その一)』錦織剛清 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)一八～二四

『相馬旧臣事務所編纂』晴天白日相馬実伝(その一) 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)二五～三四

『相馬騷動見立鏡』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)三五～三六

『人類の最大暗黒界癲癩病院(その二)』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)三七～四二

『天皇制と精神疾患患者・資料(その一)』『昭和御大礼衛生記録』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)四三～五八

『精神病患者慈善救治会關係年表』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)五九～六〇

『なぜ精神衛生法改正に執着するか』吉岡真二 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(七)六一～六二

『相馬事件關係(完結) 錦織剛清』相馬家紛擾之顛末』相馬旧臣事務所編纂 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(八)八～一二

『相馬事件關係』先天地白日相馬実伝』相馬旧臣事務所編纂 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(八)一三～二〇

『癲狂院に於る精神病看護学』(その二)』榊保三郎 『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(八)二一～二八

『人類の最大暗黒界癲癩病院(その三)』戸山病院』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(八)二九～三三

「天皇制と精神疾患患者・資料(その二)『大称記録』(その一)『警視庁総監官房文書課記録係編』 呉秀三先生記念精神科医療史資料通信」(八)三四～三七

「呉秀三先生にまなぶもの 精神病患者慈善救治会のこと、ほか」

岡田靖雄『広島医学』三九(七)九六五～九七一

「相馬事件」探書記 岡田靖雄『図書』(四四二)二〇～二五

「日本の精神科医療の歴史と課題」岡田靖雄『藤代健生病院一〇周年記念行事実行委員会編』

「呉秀三先生にまなぶもの 精神病患者慈善救治会のこと、ほか」

岡田靖雄『日本医史学雑誌』三三(一)一四五～一五三

「ロールシャハ・テストの起源とスイス精神医学史」小俣一郎『日本医史学雑誌』三三(一)一八六～一八八

「Melancholie, Accidia und Studenten-Apathie—einige geschichtliche Aspekte der Melancholie—」Hirashi OHASHI『日本医史学雑誌』三三(二)三八四～三七八

「精神病患者慈善救治会のこと 呉秀三先生伝記補遺(その一)」岡田靖雄『日本医史学雑誌』三三(四)三八五～四二二

「日本精神医学風土記 第六回 富山県」高柳 功『臨床精神医学』一五(一)一一九～一二四

「日本精神医学風土記 第七回 石川県」松原太郎『臨床精神医学』一五(二)二五五～二六三

「日本精神医学風土記 第八回 静岡県」田原幸男『臨床精神医学』一五(二)四〇七～四一一

「日本精神医学風土記 第九回 大阪府」長坂五朗『臨床精神医学』一五(四)五四一～五四八

「日本精神医学風土記 第二〇回 鳥根県」杉原寛一郎『臨床精神医学』一五(五)六八九～六九六

「日本精神医学風土記 第一一回 広島県」浅田成也『臨床精神医学』一五(八)一四一九～一四二四

「日本精神医学風土記 第二二回 宮崎県」高宮澄男『臨床精神医学』一五(一一)一八五五～一八六一

「日本精神医学風土記 第三三回 熊本県」平田宗男『臨床精神医学』一五(一二)二〇一一～二〇一四

「細胞学の発達史」牧野佐二郎『日本医事新報』(三二五八)六四～六五

「京の医療史跡探訪 北地区一～三」杉立義一『京都保険医新聞』(四九五～四九七)四

「京の医療史跡探訪 中京東部地区一～三」杉立義一『京都保険医新聞』(一五〇九～一五一二)四

「京の医療史跡探訪 上東地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一九九八)四、(一五〇〇)八、(一五〇二)四、(一五〇四)四

「京の医療史跡探訪 西陣地区一～三」杉立義一『京都保険医新聞』(一五〇五、一五〇六、一五〇八)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 中京西部地区一～四」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一三、一五一四、一五一五、一五一七)四

「京の医療史跡探訪 下京東部地区一」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一一)四

「京の医療史跡探訪 下京西部地区一〜二」杉立義一『京都保険医新聞』(一五一九)四、(一五二二)六

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その八)、(その九)」森 重孝『鹿児島市医報』二五(五)三二〜三五、(六)三八〜四〇

「地方で順天堂史を探究する」松本治朗『順天堂医学』三三(三)三八二〜三八四

治療史

「癌放射線治療の思い出」山下久雄『癌治療・今日と明日』八(一)一〜四

「古代医療とその思想的背景(その二)」竹中普久『いずみ』三三(四)八〜九

「わが国における高気圧酸素治療の回復と展望」榊原欣作『日本高気圧環境医学会雑誌』一一(一)二一〜四〇

伝記

「Othrid Forester」佐野圭司『Clin Neurosci』四(一〇)一一七九

「奥秀三」金子嗣郎『Clin Neurosci』四(一一)一三〇一
「Leopold Auerbach」中江 沃『Clin Neurosci』四(一一)一四一七

「漢方医学の歴史の変遷 津田玄仙」安井広迪『Kampo』四(一)六四〜七〇

「漢方医学の歴史の変遷(一七)山田業広」安井広迪『Kampo』

四(五)二二八〜二三五

「バクト菌の発見と北里柴三郎」竹田美文『Med Tribune』一九(二四)二二

「野口英世とオロヤ熱病原体」竹田美文『Med Tribune』一九(三三)二四

「森鷗外とドイツ(一)、(二)、(三)」藤井啓行『Noue Informa』一〇(八)六〜一一、(九)六〜一一、(一〇)七〜一一

「掛川宿医戸塚隆伯のことども」舟木茂夫『いわちどり』(一四)一〇七〜一二八

「武見太郎の足跡(第三回) 武見太郎と日本医療」小池 昇、水野 肇『からだの科学』(二二九)二二〜三三

「武見太郎の足跡(第五回) 武見太郎と医療費問題」松浦十四郎、水野 肇『からだの科学』(一三二)一四〜二三

「名医列伝 多くの俊才を育てた蘭学者 緒方洪庵」蔵方宏昌『ばんぶう』(五五)一八四〜一八五

「名医列伝 市井の名医に徹した解剖の名手 小石元俊」蔵方宏昌『ばんぶう』(五六)一九八〜一九九

「名医列伝 数学の名著を書いたルネッサンスの名医 カルダノ」蔵方宏昌『ばんぶう』(五七)一八六〜一八七

「名医列伝 日本で初めての帝王切開術を実施 伊古田純道」蔵方宏昌『ばんぶう』(五八)一八四〜一八五

「名医列伝 西欧化学を導入し実施した蘭方医 川本幸民」蔵方宏昌『ばんぶう』(五九)一八四〜一八五

「名医列伝 理想を掲げドイツ医学の採用を推進 相良知安」蔵

- 方宏昌『ばんぶう』(六〇)一八六～一八七
- 「名医列伝 国学を大成した小児科医 本居宣長」蔵方宏昌『ばんぶう』(六一)一九四～一九五
- 「名医列伝 分析心理学の確立者 ユング」蔵方宏昌『ばんぶう』(六二)二〇六～二〇七
- 「名医列伝 わが国古医方の開祖 永田徳本」蔵方宏昌『ばんぶう』(六三)一九六～一九七
- 「名医列伝 古医道研究の大成者 権田直助」蔵方宏昌『ばんぶう』(六四)二〇〇～二〇一
- 「名医列伝 近代植物学の基礎を作った蘭方医 伊藤圭介」蔵方宏昌『ばんぶう』(六五)一六〇～一六一
- 「名医列伝 北海道開拓に命を燃やした蘭方医 関寛斎」蔵方宏昌『ばんぶう』(六六)一六八～一六九
- 「キド・ホルツクネヒト教授の一生」滋賀達雄「サクラXレイ写真」三七(五)三二～三七
- 「臨床医として安藤昌益を読む」友吉唯夫『安藤昌益全集 月報医学関係資料』(一五)一～六
- 「破傷風菌の純粋培養法の発見 奮闘努力の人 北里柴三郎」添川正夫『医の道』二(一)二～七
- 「大流行のさなか赤痢菌を発見した志賀潔 日本とドイツで師に恵まれた細菌学者」『医の道』二(一)六八～七二
- 「Henrique da Rocha-Lima とその業績—Rickettsia の誕生(一)—」桑田次男『医学のあゆみ』一三七(一)一二二～一二六
- 「御雇外科教師 ヴィルヘルム・シュルツェ(二)」小関恒雄他『医学のあゆみ』一三七(七)五五二～五五五
- 「アドレナリンと上中敬三」中山 沃『医学のあゆみ』一四〇(二)二二
- 「薬学者J・Eエイキマンの東京における業績について」安江政一『医学史研究』(六〇)一七～二五
- 「後藤新平研究(五)」小野寺伸夫『医学史研究』(六〇)三二～三六
- 「加賀谷凡秋と第十四回医科大学附属図書館協議会」堀江幸司『医学図書館』三三(一)八〇～八三
- 「エドワード・ジェンナー 牛痘の原因および作用に関する研究」酒井シヅ『医学図書館』三三(二)九七～九八
- 「隠れた巨匠—John Weakland」鈴木浩二『家族療研』三(一)八一～八四
- 「日本の帝王切開術 伊古田純道没後百年」蔵方宏昌『科学医学資料研究』(一四六)一～七
- 「暉峻義等とハーヴェイの De Motu Cordis」三浦豊彦『科学医学資料研究』(一五〇)一～七
- 「Lugol とルゴール液」三浦徹蔵『感染・炎症・免疫』一六(三)一八八～一九二
- 「漢方史景 最初の帝王切開と薬方 伊古田純道没後一〇〇年」蔵方宏昌『漢方診療』五(一)二二～三三
- 「漢方史景 名医・華だの医療(上・中・下)」蔵方宏昌『漢方診療』五(四)三四～三五、(五)六四～六五、(六)四四～

四五

「山田重正先生追悼特集」『啓迪』(四)一〇二二

「錦小路頼徳と防長」田中助一『啓迪』(四)一三〇一八

「津島如蘭の墓碑と『津島家譜』について」末中哲夫、遠藤正治

『啓迪』(四)一九〇二四

「検査を築いた人びと 血液学の父 ウイリアム・ヒューソン」

酒井シヅ『検査と技術』一四(一)一六

「検査を築いた人びと 脳脊髄液の威儀を認めた ドメニコ・コ

トゥーニョ」深瀬泰旦『検査と技術』一四(二)一三四

「検査を築いた人びと 簡単な手技で脊髄腔内の通過障害を見い

だした ハンス・クエッケンシュテット」深瀬泰旦『検査と技

術』一四(三)二一〇

「検査を築いた人びと 石原式視力表・色盲表の考案者 石原忍」

酒井シヅ『検査と技術』一四(四)三〇四

「検査を築いた人びと 髄液のグロブリン反応を考案した マッ

クス・ノンネ」深瀬泰旦『検査と技術』一四(六)六六二

「検査を築いた人びと 注入実験によって脳脊髄液の流れを見い

だした グスタフ・マグヌス・レティウス」深瀬泰旦『検査と

技術』一四(七)七五四

「検査を築いた人びと 人脳用マイクロトームを完成させた ベル

ナルト・フォン・グッデン」酒井シヅ『検査と技術』一四

(八)八五六

「検査を築いた人びと 鍍銀染色法の創始者 マックス・ビルシ

ョウスキー」深瀬泰旦『検査と技術』一四(九)九六〇

「検査を築いた人びと メチレンブルー染色法を創めた フリー

ドリッヒ・レフレル」深瀬泰旦『検査と技術』一四(一〇)

一〇五〇

「検査を築いた人びと 細胞診の父 ジョージ・ニコラス・パバ

ニコロウ」酒井シヅ『検査と技術』一四(一)一四四

「検査を築いた人びと 反射の基礎となるシナプスを提言した

チャールズ・シェリントン」深瀬泰旦『検査と技術』一四

(二)一四〇

「検査を築いた人びと ミクロトームを改良して連続切片を作っ

た ウィルヘルム・ヒス」深瀬泰旦『検査と技術』一四

(三)一三七二

「G・ロリーガの『ニューマチックハンマー』の論文」上畑鉄之

丞他『産業医』二八(六)四八二〜四八三

「若き日の野口英世博士と順天堂」渡辺得次郎『順天堂医学』

三二(二)二二四〜二二六

「板垣死すとも自由は死せず 板垣退助の診断書」菅野弘夫『順

天堂医学』三三(一)一三〇〜一三二

「Dr. Lawrence C. McHenry, Jr. の死を悼む」川村純一郎『精

神内科』二四(六)六一五〜六一七

「橋本綱常(一八四五〜一九〇九)と仮性肥大型進行性筋ジスト

ロフィー症」作田 学『神経内科』二五(六)六一六〜六一九

「Rudolf Schoenheimer」篠原兵庫『生化学』五八(二二)

一四四九〜一四七〇

「オスラーの遺した言葉と心の業績」日野原重明『全国自治体病

協誌』(二一五)七～六

「齒科医史前夜の手稿 故都築輝生先生」杉本茂春『大阪齒醫師
会誌』(四三六)五〇～五一

「ビタミンD研究を支えてきた人々(六) Harry Steenbock」森
井浩世『中外医薬』三九(七)四四七～四五〇

「ビタミンD研究を支えてきた人々(七) Mark Robert Hausler
(一九四二～)」土光茂治『中外医薬』三九(八)五二二～
五二六

「ビタミンD研究を支えてきた人々(八) John Wesley Pike
(一九四七～)」土光茂治『中外医薬』三九(九)五九八～六〇二

「ビタミンD研究を支えてきた人々(九) 細谷憲政(一九二五～)」
森内幸子『中外医薬』三九(一〇)六七五～六七八

「ビタミンD研究を支えてきた人々(一〇) Robert Harold Was-
serman(一九二六～)」志村三三夫『中外医薬』三九(一一・
一二)七四八～七五二

「桜所・石川良信先生の業績」首藤友彦『東北公衛会三五回講
集』四一

「僻地に生涯を献げたド・ロ神父の信念」田中用次郎『日経メデ
ィカル』一五(一)二〇六～二〇七

「女医一男尊女卑の中、生れ生ずる苦しみ」鈴木 侃『日経メデ
ィカル』一五(六)二〇二～二〇三

「秋・冬の時代」萩野吟子」鈴木 侃『日経メディカル』
一五(一三)二四二～二四三

「木曾の眼科医に徹して二〇〇年」野中杏一郎『日経メディカ

ル』一五(一四)二〇二～二〇三

「吳秀三先生にまなぶもの 精神病者慈善救治会のこと、ほか」

岡田靖雄『日本医史学雑誌』三三(一)一四五～一五三

「富士川游と広島」富士川英郎『日本医史学雑誌』三三(一)
一五四～一五七

「イタリア、パビア大学の解剖医たち(スカルバ、コルチ、ゴル
ジ)」原田康夫『日本医史学雑誌』三三(一)一五八～一六〇

「伊藤鳳山の医説をめぐって」荒木ひろし『日本医史学雑誌』
三三(一)一六三～一六五

「富士川游博士の思い出」田中助一『日本医史学雑誌』三三(一)
一六七～一六九

「E・ベルツの病理学総論講義について」安井 広『日本医史学
雑誌』三三(一)一七六～一七八

「医師トーマス・B・ダンの経歴」泉彰之助『日本医史学雑誌』
三三(一)一八二～一八四

「ビダール(勿多兒・Jean Paul Isidore Vidal 一八三〇～
一八九六)の生涯と業績」蒲原 宏、清水陽人『日本医史学雜
誌』三三(二)一八八～一九〇

「扁鵲の画像について」石田秀実『日本医史学雑誌』三三(一)
二二九～二三三

「扁鵲 その二」家本誠一『日本医史学雑誌』三三(一)
二三一～二三三

「河内金剛寺新出の鎌倉時代書写『医心方』卷第十三について」
東野治之『日本医史学雑誌』三三(三)二五九～二六七

「精神病者慈善救治会のこと 吳秀三先生伝記補遺(その二)」岡

田靖雄『日本医史学雑誌』三三(四)三八五～四二二

「池田謙齋伝補遺」長門谷洋治『日本医史学雑誌』三三(一)

五〇～六七、(二)一七五～一七六

「女医第二号生沢クノ」長門谷洋治『日本医事新報』(三三二〇)

一一六

「続・江口襄軍医について」新実藤昭『日本医事新報』

(三三三三)六一～六三

「赤穂義士伝外史(二)―その医学史的散策」木下 勤『日本医

事新報』(三三三六)六二～六四

「治癩剤『大風子油』と十九世瑞碩岡村平兵衛」佐久間温巴『日

本医事新報』(三三三九)五九～六一

「知られざる医師 アントン・パウロウィッチ・チェホフ」W・

P・フロコール、羽生 順訳、『日本医事新報』(三三四一)

五九～六二

「フーフェランドとその著書『医戒』」蔵方宏昌『日本医事新報』

(三三四一)一三六

「明治期御雇医師夫妻の生活(一九)～(二六) ドクトル・シュル

ツェ夫人の手紙」トスカ・ヘゼキール編『日本医事新報』

(三三三三)七〇～七三、(三三二四)七〇～七三、(三三二七)

六六～六九、(三三二八)六二～六五、(三三二九)七〇～七四、

(三三三四)六四～六七、(三三三五)六六～七〇、(三三六二)

六四～六八

「文部省派遣 東京大学初の医学留学生 新藤二郎の場合」新実

藤昭『日本医事新報』(三三四六)五九～六三

「アナフラクトイド紫斑病とフォン・シーボルト」石田純郎『日

本医事新報』(三二五〇)五七～五九

「解剖学者ノックスとバーク殺人事件」関根正雄『日本医事新報』

(三二五三)六四～六七

「ある青森県人医師の生涯」品川信良『日本医事新報』

(三二五七)五九～六二

「前野良沢と『解体新書』」酒井 恒『日本医事新報』

(三二六七)五九～六一

「三鷹時代における大宰治の使用薬剤(七)」山本貴夫、浅田高明

『日本医事新報』(三二六八)五九～六一

「オスラーの習慣論のルーツ」日野原重明『日本医事新報』

(三二六九)五九～六三

「斎藤茂吉と歯」島野達也『日本歯科医史学会会誌』一三(一)

三一

「野口英世と切手(第一報)」谷津三雄、渋谷 敏、吉村宅弘『日

本歯科医史学会会誌』一三(一)三二～三三

「野口英世と切手(第二報)」谷津三雄、江川裕之、落合俊輔『日

本歯科医史学会会誌』一三(一)三六～三九

「ドクトル渡辺鼎について」谷津三雄、坂本嘉久、吉田直人『日

本歯科医史学会会誌』一三(一)四四～四六

「清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム 清水先生の人物

像と業績」吉井千代田『日本薬史学会』二二(一)一～四

「清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム 漢方と漢薬と清

- 水先生」伊藤和洋『日本薬史学会』二二(一)五〇八
- 「清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム 調剤学と清水藤太郎先生」堀岡正義、金枝正巳『日本薬史学会』二二(一)九一—九五
- 「清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム 日本薬局方と清水先生」江本龍雄『日本薬史学会』二二(一)一六〇—一八
- 「清水藤太郎博士生誕百周年記念シンポジウム くすり博物館と清水藤太郎先生」青木允夫『日本薬史学会』二二(一)一九—二〇
- 「Robert Koch の日本への影響(一)」藤野恒三郎『微生物』二(三)九四—一〇二
- 「感染症病原論の歴史的展望(八・九) Robert Koch の日本への影響(三・四)」藤野恒三郎『微生物』二(五)五八二—五九〇、(六)六九一—六九八
- 「九州の漢方医列伝 亀井南冥先生(一)、(二)、(三)」榎藤嘉治『福岡医師漢方研究会報』七(三)三二—三三、(四)一一—一六、(五)六—九
- 「郷土の先哲医家 久米升頭」中西 啓『福岡医師漢方研究会報』七(九)一一—二二
- 「郷土の先哲医家 原三信」中西 啓『福岡医師漢方研究会報』七(一〇)一三
- 「郷土の先哲医家 具原益軒」中西 啓『福岡医師漢方研究会報』七(一一)一九
- 「陸軍軍医中將 芳賀栄次郎博士に関する研究(第一—三報)」片岡義雄『防衛衛生』三三(一〇)五〇一—五〇六、(一一)五五三—五五七、(一二)五八五—五九〇
- 「平安時代の医家和氣氏について」高瀬重雄『北陸医史』七(一)三—八
- 「楢林健三郎の墨蹟と翻訳書」正橋剛二、松田健史『北陸医史』七(一)九—一〇
- 「館女龍の脇差し及び女龍の事など」館 秀夫『北陸医史』七(一)一一—一三
- 「福井藩医半井南陽先生漢詩」岩治勇一『北陸医史』七(一)二七
- 「ホルテルマンの愛児の墓におけるのコメント」石田純郎『北陸医史』七(一)六〇—六一
- 「埋もれていた近江の医聖 北村宗龍」大谷雅彦編著『野洲町史編さん室』
- 「阿蘭陀通詞小川悦之進」片桐一男『洋学史研究』(三)一—九
- 「臨床ウイリス学の先駆者 弘 好文先生」中尾 亨『臨小児医』三四(一)三—六
- 「先人の業績をしのんで 大森治豊先生を偲びて」天兒民和『臨床と研究』六三(一)赤ページ一—二
- 「先人の業績をしのんで 武谷廣先生の思い出」赤染種章『臨床と研究』六三(一)赤ページ三—四
- 「先人の業績をしのんで 宮入慶之助先生」宮崎一郎『臨床と研究』六三(三)赤ページ五—六
- 「先人の業績をしのんで 久保猪之吉先生の逢見」河田政一『臨

床と研究』六三(四) 赤ページ七七八

「先人の業績をしのんで 旭教授への追慕」樋口謙太郎『臨床と研究』六三(五) 赤ページ九一〇

「先人の業績をしのんで 恩師小野先生の思い出」佐藤八郎『臨床と研究』六三(六) 赤ページ一一〇二

「先人の業績をしのんで 九大小児科初代教授伊東祥彦先生のことども」寺脇 保『臨床と研究』六三(七) 赤ページ一三二一

「先人の業績をしのんで 稲田龍吉先生をしのんで」操 坦道『臨床と研究』六三(八) 赤ページ一五二一

「先人の業績をしのんで 吳建先生の思い出」操 坦道『臨床と研究』六三(九) 赤ページ一七二一

「先人の業績をしのんで 後藤七郎先生の思い出」古賀秀夫『臨床と研究』六三(一〇) 赤ページ一九二〇

「先人の業績をしのんで 高木繁教授の思い出」樋口謙太郎『臨床と研究』六三(一一) 赤ページ二一一

「先人の業績をしのんで 三宅速先生を憶う」今 永一『臨床と研究』六三(一二) 赤ページ二二二

「医学の中の偉人たち (一) Hippocrates 観察と記録」飯野晃啓『臨床検査』三〇(一) 八六

「医学の中の偉人たち(一) Claudius Galen (A D 130~100) 実験生理学の父」飯野晃啓『臨床検査』三〇(二) 一九六

「医学の中の偉人たち (三) Andreas Vesalius (1514~1564) 近代解剖学の父」飯野晃啓『臨床検査』三〇(三)

三〇六

「医学の中の偉人たち (四) Ambroise Paré 近世外科学の父」飯野晃啓『臨床検査』三〇(四) 四二八

「医学の中の偉人たち (五) William Harvey (1578~1657) 実験生理学の再興」飯野晃啓『臨床検査』三〇(五) 五四六

「医学の中の偉人たち (六) Edward Jenner 天然痘の予防」飯野晃啓『臨床検査』三〇(六) 六六四

「医学の中の偉人たち (七) Ignaz Philipp Semmelweis 産褥熱の予防」飯野晃啓『臨床検査』三〇(七) 七八二

「医学の中の偉人たち (八) Louis Pasteur (1822~1895) 免疫学の父」飯野晃啓『臨床検査』三〇(八) 九〇八

「医学の中の偉人たち (九) Wilhelm Konrad Röntgen (1845~1923) 物理学から医学への贈り物」飯野晃啓『臨床検査』三〇(九) 一〇三四

「医学の中の偉人たち(一〇) Robert Koch (1843~1931) 細菌の狩人」飯野晃啓『臨床検査』三〇(一〇) 一一五二

「医学の中の偉人たち (一一) Paul Ehrlich (1854~1915) 魔法の弾丸の発見者」飯野晃啓『臨床検査』三〇(一一) 一五八六

「医学の中の偉人たち(一二) Alexander Fleming 青カビが命を救った」飯野晃啓『臨床検査』三〇(一二) 一七〇〇

「老年精神医学に貢献した人々(第一三回) 尼子富士郎 我が国老年医学を生み育んだ偉人」篠原恒樹『老年精神医学』三(一)

「老年精神医学に貢献した人々(第一三回) 尼子富士郎 我が国老年医学を生み育んだ偉人」篠原恒樹『老年精神医学』三(一)

二六八～二八一

伝 記(双)

「Bernhard von Gudden と Ludwig 二世(II)」武智秀夫『医学のあゆみ』一三九(一一)九〇三～九〇五

「野口英世と『日本医学図書館』をめぐる人々」高橋 進『医学図書館』三三三(四)三五一～三五五

「江戸末期二豊の医師たち」荒巻逸夫『大分医師会報』(三七八)三六～四四

「伊ペビア大学の解剖医たち スカルバ、コルチ、ゴルジの業績」原田康夫『日経メディカル』一五(七)二二〇～二二一

「本邦ハンセン病史における後藤昌文・昌直先生父子の業績」佐久間温巳『日本医史学雑誌』三三三(一)一六九～一七一

「中井厚沢と土生玄碩」宗田 一『日本医史学雑誌』三三三(一)一七二～一七四

「呉家の本家筋、豊田家の医師たち」豊田裕治、豊田秀之、石田純郎『日本医史学雑誌』三三三(一)二四八～二四九

「日本医史学会と芸術医学会創立に貢献した医人達」江川義雄『日本医史学雑誌』三三三(一)二五二～二五三

「藩主津軽氏一族の死亡年月日について」松木明知『日本医史学雑誌』三三三(四)四六九～四八〇

「夏目漱石と真鍋嘉一郎(上)」天岸太郎『日本医事新報』(三三二四)六三～六六

「柴田承桂と長井長義—先覚者たちの薬学振興論をめぐる—」安江政一『日本薬史学会』二二(一)三三三～四〇〇

「ロイトルとツワーテル—開拓使仮学校女学校のオランダ女教師たち」石田純郎『日蘭学会会誌』一一(一)一七～三四

「日本整形外科の開祖と中津市 田代義徳先生と田代基徳」天児民和『臨床と研究』六三(九)青ページ

「医学近代化と外人たち(九) 司薬場で活躍した人びと」宗田 一『臨床科学』二二(一)一一一～一一五

「医学近代化と外人たち(一〇) 本邦海軍軍医教育の基礎を築いた二人の英人医師—アンドンソンとホイラー—」長門谷洋治『臨床科学』二二(一)二三九～二四五

「医学近代化と外人たち(一一) ヘボン、シモンズ、エルドリッジ」大滝紀雄『臨床科学』二二(三)三八一～三八六

「医学近代化と外人たち(一二) パーム、ニュートン、パーセル」蒲原 宏『臨床科学』二二(四)五一三～五二二

「医学近代化と外人たち(一三) 明治戊辰戦争の戦傷者治療に動員されたイギリス人医師たち—ウイリスとシドール」蒲原 宏『臨床科学』二二(五)六三五～六四四

「医学近代化と外人たち(一四) ミュレルとホフマン」酒井シヅ『臨床科学』二二(六)七六七～七七〇

「医学近代化と外人たち(一五) エルウィン・フォン・ベルツ」安井 広『臨床科学』二二(七)九一一～九一五

「医学近代化と外人たち(一六) 東京大学医学部の少壮エリート教師たち デーニッツ、ディーゲル、ディッセル」小関恒雄『臨床科学』二二(八)一〇四八～一〇五二

「医学近代化と外人たち(一七) 京都府療病院の外人教師たち—

ヨンケル、シヨイペー」藤田俊夫『臨床科学』二二(一〇)
一三二七～一三三三

「医学近代化と外人たち(一八) ドイツ医学の地方普及に貢献
したローレル」小形利彦『臨床科学』二二(一一)一四五四
～一四五八

「医学近代化と外人たち(一九) マクドナルド」土屋重朗『臨床
科学』二二(一二)一六〇一～一六〇四

伝染病史

「ワイル病病原スピロヘータの発見」竹田美文『Med Tribune』
一九(四)一三六

「多くの示唆を与えるATL発見の経緯」脇坂行一『クリニシア
ン』三三(一)一八七～一八八

「予防衛生研究所の創設と伝染病研究所の改組」小高 健『日本
医史学雑誌』三三(四)四二三～四六八

「疱瘡をめぐる信仰と儀礼」波平恵美子『日本医事新報』
(三三四一)一三六～一三七

「古代以来の本邦の天然痘発生状況」添川正夫『日本医事新報』
(三三四八)一七〇～一七一

「日本ベスト流行史(五)」春日忠善『北里メデイカルニュース』
三三(一・二)一～四〇

東洋医学史

「医学史物語(中国篇)ことわざを通じての医者像(その二)」
山本徳子『Med Companion』六(一一)一五一七～一五一八

「耳鼻咽喉科領域における中国医学序説 中国医学の歴史」藤井

一省『カレントセラピー』四(九)一〇九～一一二

「漢方史景「傷寒論」と漢方薬の剂型(下)」藏方宏昌『漢方診
療』五(一)四六～四七

「漢方史景 臍の緒と『本草綱目』」藏方宏昌『漢方診療』五
(二)四四～四五

「漢方古典文献概説(一三)『敦煌文書』中の医薬文献(その二)
スタイン文書」小曾戸洋『現代東洋医』七(三)八七～九三

「中国医事制度史における按摩について―隋・唐時代を中心とし
て―」山本徳子『日本医史学雑誌』三三(一二)二二八

「中国医学史の三十五年(一九四九～一九八四)」李 経緯『日
本医史学雑誌』三三(一)六八～八八

「中国医学と道教(Ⅳ医神)」吉元昭治『日本医史学雑誌』三三
(二)二二二～二二三

「宏代氣功の成就」郎 需才『日本医史学雑誌』三三(一)
二二四～二二七

内科学史

「昭和内科史ノート 肝臓病」三辺 謙『からだの科学』
(二二七)二二六～二三一

「昭和内科史ノート(八)難病(二)および糖尿病」三辺 謙
『からだの科学』(二二九)一一一～一一七

「第二次大戦中仙台地方に多発せる内科疾患」山形敏一『医学史
研究』(六〇)一一～一六

病院史

「続サン・ルイ病院とパリ医学史博物館歴代の断片」三浦徹蔵

『千葉医師会誌』 三八(六)三七七～三八二

「北陸の医療を牽引した石川県金沢病院」寺畑喜朔『日経メディカル』 一五(五)一七〇～一七一

「日本における病院給食の始まり(明治六年・大阪)」中室嘉祐

『日本医史学雑誌』 三三(一)二四一～二四三

「箱館ロシア病院の医師に関する知見補遺」松木明知『日本医史学雑誌』 三三(三)三〇三～三〇八

「ジョン・ハワード病院調査 英国医療史の研究」車田松三郎

『日本医事新報』 (三二二九) 六一～六五

「日本における正式な直営の病院給食の始まり 給食管理規則の始まり(明治六年・大阪)」中室嘉祐『日薬会一〇六年会講要』 六七八

「石川県金沢病院の写真に関する考証」寺畑喜朔、津田進三『北陸医史』 七(一)三二～三三三

陸医史』

風俗史

「冬至と柚子湯」楨佐知子『医の道』 二(一一)六六～六七

「民俗芸能資料にみる医師の実像」木下久雄『医学史研究』 (六〇) 三七～三八

法医学史

「明治初年のある絞刑後蘇生例」小関恒雄『Act Crim Japon』 五二(一) 三三～三七

「三宅秀および高橋順太郎による裁判医学講義・補遺」小関恒雄

『Act Crim Japon』 五二(一) 七四～七六

「大原八郎作成の死体検案書(六〇)」大原菅一郎『大原病年報』

(二二九) 一二三～一二七

「明治法医学編年資料断章」小関恒雄『日本法医学雑誌』 四〇(一) 五三～六五

仏教医学史

「仏教教典にみられる医療と現代日本の医療」杉田暉道『日本医事新報』 (三二五一) 五九～六一

「釈尊と右側臥位」松木明知『日本医事新報』 (三二六七) 六三～六四

麻酔学史

「高嶺による全身麻酔手術とその伝播経路の疑義 豊田氏に対する反論」松木明知『医と生物』 一三(二) 八九～九二

「ジョン・スノーとその麻酔科学の業績 とくにその著書『On the Inhalation of the Vapour of Ether in Surgical Operations』に於て」松木明知『日本医史学雑誌』 三三(一) 二二六～二三八

「高嶺徳明の麻酔薬(二) 本邦における全身麻酔の先駆者」松木明知『麻酔』 三五(五) 八四二～八四六

門人録

「原老柳門譜」田崎哲郎『日本医史学雑誌』 三二(三) 三〇九～三一三

薬学史

「日本の売薬(一〇八) 竜涎香・鯨糞と鯨脳・鯨精」宗田 一『医薬ジャーナル』 三三(一) 二二五～二二九

「日本の売薬(一〇九) 芥子と罌粟」宗田 一『医薬ジャーナル』

(142)

二二(一)四五八〜四六一

「日本の売薬(二一〇)」「外篇」ラクダの薬用」宗田 一 『医薬ジャーナル』二二(三) 六八四〜六八七

「日本の売薬(二一一)」「外篇」真言加持土砂の薬効」宗田 一 『医薬ジャーナル』二二(四) 八八七〜八九〇

「日本の売薬(二一二)海椰子(ウミヤシ)」宗田 一 『医薬ジャーナル』二二(五) 一〇八七〜一〇九二

「抗ウイルス剤」北本 治『治療学』一七(一) 一二九〜一三二

「津軽一粒金丹の研究(二)」松木明知『日本医学史雑誌』三二(三) 二八一〜二九〇

「古医書における漢方の使い方 四君子湯(その一〜二)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』九五(二・二) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 十全大補湯(その一・二)」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』九五(六・七) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 平胃散(その一〜三)」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九五(八〜一〇) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 安中散(その一・二)」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九五(一〇・一一) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 胃苓湯(その一・二)」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』九五

(二一・二二) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 茯苓飲(その一・二)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』九五(一三)、九六(一) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 半夏厚朴湯(その一〜三)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』九六(一〜三) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 香蘇散(その一〜三)」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』六六(四〜六) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 半夏瀉心湯(その一〜四)」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』九六(六〜九) カラー図説

「古医書における漢方の使い方 三黄瀉心湯(その一〜四)」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』九六(九・一一〜一三) カラー図説

「治癩剤『大風子油』と十九世瑞碩岡村平兵衛」佐久間温巳『日本医事新報』(三三三九) 五九〜六一

「人尿を薬用とする文献」小曾戸洋『日本医事新報』(三二五五) 一四五〜一四六

「日本の本草学者は広東人参をどう見ていたか」浅野正義『日本薬史学会』二二(一) 二二〜二七

「熊府薬物会目録」所載の薬物の研究(第二報) 藩内客品七十有二種について」浜田善利『日本薬史学会』二二(一) 四一〜

五一

「『医心方』卷三〇の基礎的研究 本草学的価値について」真柳誠『日本薬史学会』二二(一)五二～五九

「日本薬局方にみられたヒ素含有製剤の変遷」山田光男、松本仁人『日本薬史学会』二二(一)六〇～六五

「養老医疾令合和御薬条復原の再検討」丸山裕美子『日本歴史』(四五六)一九～三三

「戦後のペニシリン工業の復興」落合勝一郎『病院』四五(九)七六六～七六七

「薬の歴史のとらえ方(一) 徐福伝説をめぐる」宗田 一『薬史学会通信』(二)二～三

「薬の歴史のとらえ方(二) 出雲神話の薬物療法」宗田 一『薬史学会通信』(三)二～四

「家伝薬『濱田膏』について」那須 務、吉崎文彦、久道周次『薬史学雑誌』二二(一)六七～七二

「初代岡山藩池田忠継廟天井の植物絵について」奥田拓男、土岐隆信、市川俊介『薬史学雑誌』二二(一)七三～七六

「人吉・相良藩の御薬園について」浜田善利『薬史学雑誌』二二(一)七七～八〇

「日本薬局方に見られたチヨウジ、チヨウジ油の変遷」松本仁人、山田光男『薬史学雑誌』二二(一)八一～八五

「飯沼慾齋の『根尾採薬秘笈』収載植物について」田中俊弘、水野瑞夫、川瀬仙吉、吉田国二『薬史学雑誌』二二(一)八六～九三

「仙台藩における人参栽培について」那須 務、吉崎文彦、久道周次『薬史学雑誌』二二(一)九四～一〇〇

その他

「医学にまつわる人と物と時代 最初の医学雑誌とニコラ・ド・ブレニー」大村敏郎『Refer』一(一)二七～二六(後頁から)

「『未来』からの旅(一) シュバイツァの碑」須佐美誠『Refer』一(一)三〇～二八(後頁から)

「医学にまつわる人と物と時代 ラネネックと診断法器具のシンボル」大村敏郎『Refer』一(一)二七～二六(後頁から)

「医学にまつわる人と物と時代『ブラバーズ皮下注射器』考」大村敏郎『Refer』一(三)二七～二六(後頁から)

「医学にまつわる人と物と時代 救急車を開発したラレーの右手」大村敏郎『Refer』一(四)二七～二六(後頁から)

「『診療報酬』物語 明治二十年代の医療料金(その二)」青柳精一『ばんぶう』(五五)一八六～一八八

「『診療報酬』物語『医師の債券』が民法に登場」青柳精一『ばんぶう』(五六)二〇〇～二〇二

「『診療報酬』物語 人力車の出現と開業医師」青柳精一『ばんぶう』(五七)一八八～一九〇

「『診療報酬』物語(二四)～(二六) 医師法の制定と各種団体の動き(その一)～(その三)」青柳精一『ばんぶう』(五八)一八六～一八八、(五九)一八六～一八八、(六〇)一八八～一九〇

「手術室の歴史」都築正和『オペレーション』一(四)四六～

五〇

- 「スペインサーの軌 心の進化をめぐる」正高信男『ライフサイエンス』一三(九)七二〜七六
- 「医学史に登場する動物(五) 動物実験事始」酒井シヅ『ラボラトリーアニマル』三(五)五三
- 「医学史に登場する動物(六) ウィリアム・ハーヴィー」酒井シヅ『ラボラトリーアニマル』三(六)五三
- 「医学史ミニ博物館(一) アスタレピオスの杖」大村敏郎『医学のあゆみ』一三七(三)中付
- 「医学史ミニ博物館(二) ヒポクラテスの伝承」大村敏郎『医学のあゆみ』一三七(七)中付
- 「医学史ミニ博物館(三) ガレノスの壁」大村敏郎『医学のあゆみ』一三七(一二)中付
- 「医学史ミニ博物館(四) サン・コム信仰」大村敏郎『医学のあゆみ』一三八(三)中付
- 「医学史ミニ博物館(五) 続サン・コム信仰」大村敏郎『医学のあゆみ』一三八(六)、(七)中付
- 「医学史ミニ博物館(六) サン・ルイ王と医療」大村敏郎『医学のあゆみ』一三八(一二)中付
- 「医学史ミニ博物館(七) 続サン・ルイ王と医療」大村敏郎『医学のあゆみ』一三九(三)中付
- 「医学史ミニ博物館(八) ギ・ド・シヨリアクの外科書」大村敏郎『医学のあゆみ』一三九(七)中付
- 「医学史ミニ博物館(九) フランソア・ラブレールと語学」大村敏

郎『医学のあゆみ』一三九(一二・一三)中付

「長与衛生文庫(一) 設立趣旨の発表から開庫までの経緯」堀江幸司、松田明子、平川裕子『医学図書館』三三(二)一六四〜一七六

「日本核医学会・アジア核医学会・世界核医学会の創立と歴史」上田英雄『核医』二二(四)四四七〜四五三

「癌研究の思い出」桜井欽夫『癌治療・今日と明日』八(一)一〜四

「癌研究の思い出」市川篤二、新崎端夫『癌治療・今日と明日』八(三)一〜八

「制癌剤との出逢い」岩木重敏『癌治療・今日と明日』八(四)一〜四

「近代医学の先駆者に学ぶ」中西淳朗、加藤文三『月刊保団連』(二二〇)四四〜五三

「表紙のことは サレルノの外科書」酒井シヅ『手術』四〇(一)七〇

「表紙のことは ヘルニアの手術」酒井シヅ『手術』四〇(二)一七二

「表紙のことは ネロの母アグリッピナの解剖」酒井シヅ『手術』四〇(三)二五八

「表紙のことは 村医者の小手術」酒井シヅ『手術』四〇(四)四〇七

「表紙のことは Ruyssch の新生児解剖講義」酒井シヅ『手術』四〇(五)五四五

「表紙のことば 死者の書」酒井シヅ『手術』四〇(六)六七九
「表紙のことば 薬用油入れと青銅製医科器械」酒井シヅ『手術』
四〇(七)九五五

「表紙のことば 癩病者と治すキリスト」酒井シヅ『手術』四〇
(八)一一一三

「表紙のことば イブンスリーナ著『医学典範』」酒井シヅ『手
術』四〇(九)一二四〇

「表紙のことば 負傷したナポレオン」酒井シヅ『手術』四〇
(一〇)一三四六

「表紙のことば 傷を負ったアドニス」酒井シヅ『手術』四〇
(一一)一六四

「表紙のことば 病氣見舞」酒井シヅ『手術』四〇(一二)
一八一六

「表紙のことば 負傷者」酒井シヅ『手術』四〇(一三)
一九六六

「上田市医師会附属医学史料館報 回想記 千葉医大第二内科在
局の頃(三〜一四)」柳沢文秋『上田市医師会報』一六(一)
二〇〜二一、(二)一六〜一七、(三)一二〜一三、(四)一〇
〜一一、(五)一三〜二四、(六)一四〜一五、(七)二三〜
二四、(八)二三〜二四、(九)一五〜一七、(一〇)一五〜一七、
(一一)一八〜一九、(一二)一七〜一九
「一〇〇年目の女医の卵たち」大村敏郎『日本医史学雑誌』三二
(一)二〇一〜二〇三
「伊勢原市域医療史の若干の問題点」『神奈川県伊勢原市の医療

史』(仮題)の調査と執筆をおえて」奥富敬之『日本医史学雑
誌』三二(二)二〇六〜二〇七

「梅園医学論の立場」丸山敏秋『日本医史学雑誌』三二(一)
二四三〜二四五

「戦争と医師―広島を回顧して―」安芸基雄『日本医史学雑誌』
三二(四)四八一〜五〇二

「今むかし医事往来考」岸本頼子『日本医事新報』(三二四〇)
六九

「人間学的医学の臨床的課題―疾病と人間の一元論―」小侯和一
郎『日本医事新報』(三二五四)六五〜六八

「西トルキスタンとシルクロードへの旅(上)」津田修二『日本
医事新報』(三二五七)六三〜六五

「オオサンショウウオとオランダ医たち」石田純郎『日本医事新
報』(三二五九)五九〜六一

「顕微鏡の歴史(第一回)レウエンフックと彼の顕微鏡」矢野
圭司『微生物』二(五)五九一〜五九七

「明治前の顕微鏡の変遷」小林義雄『微生物』二(六)七一〇
〜七一五

「北大医学専門部史誌 終校三五周年記念」北大医専史編集委員
会
「水野朗政策の医人塑像について」寺畑喜明『北陸医史』七(一)
二八〜三〇

「今昔物語集」の中の医学(四) 白崎昭一郎『北陸医史』七
(一)五二〜五三

中国語文獻

- 「历史上的医生」马 堪温『中華醫史雜誌』一六(一)一〇一—一〇二
- 「新石器时代的外科手术——拔除侧门齿及颅骨变形术」李 牧『中華醫史雜誌』一六(一)二二—二四
- 「卜辞殷代医药卫生考」詹 鄞鑫『中華醫史雜誌』一六(一)一五—二三
- 「论宋金时期儿科学主要成就(摘要)」陈 达理、周 一谋『中華醫史雜誌』一六(一)二四—二七
- 「中国工农红军第二方面军卫生工作」高 恩显『中華醫史雜誌』一六(一)二八—三一
- 「中医药界的首次抗争活动」刘 文棗『中華醫史雜誌』一六(一)三二—三四
- 「杨则民生平事略与其对中医统一病名的见解」董 汉良『中華醫史雜誌』一六(一)三五—三七
- 「延边朝鲜族自治州卫生防疫发展简史」崔 连玉、申 国常『中華醫史雜誌』一六(一)三八—四〇
- 「子午流注学说的发端与形成」辜 孔进『中華醫史雜誌』一六(一)四一—四四
- 「药理学发展简史」宋 之琪、程 之范『中華醫史雜誌』一六(一)四四—四九
- 「《文海》中的西夏医学」洪 武烺『中華醫史雜誌』一六(一)五〇—五二
- 「清末至解放前的药学教育概况」陈 新谦『中華醫史雜誌』一六(一)五三—五八
- 「狼牙的本草考证」李 钟文『中華醫史雜誌』一六(一)五九—六二
- 「试论《新修本草》对唐代以前药物学的整理」孙 溥泉『中華醫史雜誌』一六(一)六三—六四
- 「人类学与医药卫生」吴 燕和『中華醫史雜誌』一六(一)六五—六八
- 「中国人民解放军第四野战军在解放战争时期的卫生防病工作」沈恩泽、许 世厚、郭 广民『中華醫史雜誌』一六(一)六九—七五
- 「陕甘宁边区的妇婴卫生事业(一九三七—一九四九)」孔 淑真『中華醫史雜誌』一六(一)七六—八一
- 「我国克山病流行及防治简史」张 文宣『中華醫史雜誌』一六(一)八二—八五
- 「王士雄家世考证」林 功铮『中華醫史雜誌』一六(一)八六—八七
- 「考证麻沸散和再论佗的国籍」郎 需才『中華醫史雜誌』一六(一)八八—九二
- 「祖国医学对“神”与脑认识」项 长生、汪 幼一『中華醫史雜誌』一六(一)九三—九七
- 「中医儿科中温补治法源流谈」宋 知行『中華醫史雜誌』一六(一)九八—一〇一
- 「中医学术思想对手术疗法的影响」任 旭『中華醫史雜誌』一六(一)一〇二—一〇四
- 「从叶开泰药店到健民制药」赵 鸿云『中華醫史雜誌』一六(一)一〇五—一〇八

(二) 一〇五~一〇七

「我国春秋以前及春秋时期的预防医学史料」潘金陵『中华醫史雜誌』一六(二)一〇八~一一一

「我国古代的“蜡疗法”史料」黄健『中华醫史雜誌』一六(二)一二二~一二三

「疥疮簡史」田国华『中华醫史雜誌』一六(二)一一四~一一五

「航空医学与潜水医学创始人保罗·伯特纪念法国生理学家保罗·伯特逝世百周年」崔泓『中华醫史雜誌』一六(二)一一六~一一八

「《四部医典》之创伤外科成就」李经纬、傅芳『中华醫史雜誌』一六(二)一一九~一二三

「《论寒食散方》与《诸病源候论·寒食散发候》」孔祥序『中华醫史雜誌』一六(二)一二四~一二六

「纪念吴尚先生诞生二八〇周年逝世一〇〇周年」耿鉴庭『中华醫史雜誌』一六(三)一二九~一三〇

「突出中医特色发扬外治疗法——纪念吴尚先逝世一〇〇周年」傅芳『中华醫史雜誌』一六(三)一三一~一三四

「唐代妇产科学概况」马大正『中华醫史雜誌』一六(三)一三五~一三八

「略论明代外科的主要成就(提要)」谭国俊、周一谋『中华醫史雜誌』一六(三)一三九~一四四

「中西医汇通思想初考」赵洪钧『中华醫史雜誌』一六(三)一四五~一四七

「广东近代的西医教育」刘小斌、陈沛坚『中华醫史雜誌』一六(三)一四八~一五一

「中华医学会的公共卫生工作」张玉琴『中华醫史雜誌』一六(三)一五二~一五四

「中国的皮纹学簡史」马慰国『中华醫史雜誌』一六(三)一五五~一五八

「萧山竹林寺女科考略」廖育群『中华醫史雜誌』一六(三)一五九~一六一

「福建省寄生虫病今昔」陈国忠『中华醫史雜誌』一六(三)一六二~一六六

「古代史料中的几种鼻科病候」杨大俊『中华醫史雜誌』一六(三)一六七~一六九

「忆先师延边朝鲜族名医金九翊」孙永锡、安东柱『中华醫史雜誌』一六(三)一七〇~一七一

「汪宏所称“嘉祐本”《神农本草经》的考证」盛红『中华醫史雜誌』一六(三)一七二~一七六

「论《吴普本草》在本学发展史中的地位」梁茂新、尤荣辑『中华醫史雜誌』一六(三)一七七~一八二

「俞樾考据《内经》九」钟铃、孙大兴、姚荫群『中华醫史雜誌』一六(三)一八三~一八六

「世界医史年表(一)」范丰『中华醫史雜誌』一六(三)一八七~一九二

「中国著名医史学家——陈邦贤」李经纬『中华醫史雜誌』一六(四)一九三~一九八

「民国时期北京地区中医高等教育史研究」华北国学院评介」高

益民、张 松柏、潘 玉岭、柳 学俭、俭 老东『中华医史雜

誌』一六(四)一九九~二〇一

「上海医界春秋社创办的概况」张 赞臣、王 慧芳『中华医史雜

誌』一六(四)二〇二~二〇四

「辛亥革命以后的中国法医学」贾 静涛『中华医史雜誌』一六

(四)二〇五~二〇九

「我国断肢再植实验研究成功的意义」孙 约翰『中华医史雜誌』

一六(四)二二〇~二二二

「近五十年来对《内经》理论的论争」俞 慎初『中华医史雜誌』

一六(四)二二三~二二五

「清宫档案案与北京同仁堂的历史」陈 可冀、李 春生、周 文

泉『中华医史雜誌』一六(四)二二六~二二九

「李仲守教授传略」简 柳军、李 焕英『中华医史雜誌』一六

(四)二二〇~二二二

「我国现存最早的石刻古方——龙门药方」李 永谦『中华医史雜

誌』一六(四)二二二~二二四

「徐之才里籍考」杨 晓生、陈 师衣『中华医史雜誌』一六(四)

二二五~二二七

「世界医史年表(二)」范 丰『中华医史雜誌』一六(四)

二二八~二三四

「《索玛能札》与《黄帝内经太素》」张 兴乾、张 辉煌『中华

医史雜誌』一六(四)二二五~二二七

「阿片史略」陈 新谦『中华医史雜誌』一六(四)二二八~

二四二

「从《诗经》古文字推测帛书《五十二病方》的成书年代」孙 启

明『中华医史雜誌』一六(四)二四三~二四六

「孙思邈所见《伤寒杂病论》传本考」何 爱华『中华医史雜誌』

一六(四)二四七~二四九

「《诸病源候论》对创伤出血诊断的贡献」靳 士英『中华医史

雜誌』一六(四)二五〇~二五一

「关于《子午流注针经》作者问题的一些看法」冯 禾昌『中华医

史雜誌』一六(四)二五二~二五三

「《伤寒》《金匱》二书药方的再核计」洪 贯之『中华医史雜誌』

一六(四)二五四~二五五

欧文文献

BUTTERTON, Joan R.: William Osler medical essay; The

education, naval service and early career of William Smellie.

Bull hist med 60(1): 1~18, 1986

HOLMES, Frederic L.: The felding H. Garrison lecture:

Patterns of scientific creativity. *Bull hist med* 60(1): 19~35, 1986

KUSHNER, Howard I.: American psychiatry and the cause

of suicide, 1844~1617. *Bull hist med* 60(1): 36~57, 1986

DRACHMAN, Virginia G.: The limits of progress: The pro-

fessional lives of women doctors, 1881~1926. *Bull hist med*

60(1): 58~72, 1986

- ROBERTS, William H.: Orthodoxy vs. homeopathy: Ironic developments following the flexner report at the Ohio state university. *Bull hist med* 60(1): 73~87, 1986
- CARMICHAEL, Ann G. and NUMBERS, Ronald L.: Graduate education in the history of medicine: North America. *Bull hist med* 60(1): 88~97, 1986
- GELFAND, Toly: Medical nemesis, Paris, 1894: Leon Daudet's les morticoles. *Bull hist med* 60(2): 155~176, 1986
- HABER, Carole: "Who's Looney now?": The insanity case of John Armstrong Chaloner. *Bull hist med* 60(2): 177~193, 1986
- Virginia A. Metaxas Quiroga: Female lay managers and scientific pediatries at nursery and child's hospital, 1854~1910. *Bull hist med* 60(2): 194~208, 1986
- HAMILTON, J.S.: Texts and documents: Scribonius largus on the medical profession. *Bull hist med* 60(2): 209~216, 1986
- HAMILTON, David and GOODRICH, James T.: Notes and comments: An illustration of skin graft rejection and sympathetic medicine from 1661. *Bull hist med* 60(2): 217~221, 1986
- FORSTER, Elborg: From the patient's point of view: Illness and health in the letters of liselotte von der Pfalz 1652~1722. *Bull hist med* 60(3): 297~320, 1986
- WILSON, Leonard G.: The historical riddle of milk-born scarlet fever. *Bull hist med* 60(3): 321~342, 1986
- LONGO, Lawrence D.: Electrotherapy in gynecology: The American experience. *Bull hist med* 60(3): 343~366, 1986
- BEARDSLEY, E.H.: Good-bye to Jim Crow: The desegregation of southern hospitals, 1945~1970. *Bull hist med* 60(3): 367~386, 1986
- ACKERKNECHT, Erwin H.: Notes and comments: Private institutions in the genesis of psychiatry. *Bull hist med* 60(3): 387~395, 1986
- ATWATER, Edward C.: American association for the history of medicine: Report of the fifty-ninth annual meeting. *Bull hist med* 60(3): 396~407, 1986
- GROSS, Gerald N.: Psychiatry and social activism: The politics of a specialty in postwar America. *Bull hist med* 60(4): 477~501, 1986
- GORDON, Eleanora C.: Child health in the middle ages as seen in the miracles of five English saints. A.D. 1150~1220. *Bull his med* 60(4): 502~522, 1986
- ANDERSON, C. Thomas: Robert Remak and the multinucleated cell: Eliminating a barsier to the acceptance of cell division. *Bull hist med* 60(4): 523~543, 1986
- CROWTHER, M.A.: "Savill's disease" A pauper epidemic in Britain and its implications. *Bull hist med* 60(4): 544~558,

- 1986
- APPLE, Rima D.: "Advertised by our loving friends": The infant formula industry and the creation of new pharmaceutical markets, 1870~1910. *J hist med allied sci* 41(1): 3~23, 1986
- BLUSTEIN, Bonnie Ellen: The brief career of "cerebral hyperaemia": William A. Hammond and his insomniac patients, *J hist med allied sci* 41(1): 24~51, 1986
- PINAULT, Jody Rubin: How Hippocrates cured the plague. *J hist med allied sci* 41(1): 52~75, 1986
- SHERIDAN, Richard B.: The doctor and the buccaneer: Sir Hans Sloane's case history of Sir Henry Morgan, Jamaica, 1688. *J hist med allied sci* 41(1): 76~87, 1986
- WEINER, Dola B.: An eighteenth-century battle for priority: Jacques Daviel (1693~1762) and the extraction of cataracts. *J hist med allied sci* 41(2): 129~155, 1986
- YOUNG, James Harvey: Harper's weekly on health in America, 1876. *J hist med allied sci* 41(2): 156~174, 1986
- FORBES, Thomas R.: Deadly parents: Child homicide in eighteenth-and nineteenth-century England. *J hist med allied sci* 41(2): 175~199, 1986
- BRINGS, Hans A.: Navy medicine comes ashore: Establishing the first permanent U.S. naval hospital. *J hist med allied sci* 41(3): 257~292, 1986
- ANDERSON, Robin L.: Public health and public healthiness San Paulo, Brazil 1876~1893. *J hist med allied sci* 41(3): 293~307, 1986
- PANKHURST, Richard: The thermal baths of traditional Ethiopia. *J hist med allied sci* 41(3): 308~318, 1986
- SHIRAIISHI, Nancy B.: Medieval and renaissance medicine: continuity and diversity. *J hist med allied sci* 41(4): 391~394, 1986
- KROLL, Jerome and BACHRACH, Bernard: Sin and the etiology of disease in pre-crusade Europe. *J hist med allied sci* 41(4): 395~414, 1986
- DANNENFELDT, Karl H.: Sleep: Theory and practice in the late renaissance. *J hist med allied sci* 41(4): 415~441, 1986
- HILLOOWALA, Rummy: Bartolomeo Eustachio: His influence on alinus and the anatomical models at la specola, Florence. *J hist med allied sci* 41(4): 442~462, 1986
- BRIGGS, Ward, W., Jr. and PAULSHOCK, Bernadine Z.: "Lively lustre. Kindly dew: William Heberden's" of perspiration. *J hist med allied sci* 41(4): 463~481, 1986
- LOUDON, Irvine: Deaths in childbed from the eighteenth century to 1935. *Med hist* 30(1): 1~41, 1986
- WAINRIGHT, Milton and SWAN, Harold T.: C.G. Paine and earliest surviving clinical records of penicillin therapy. *Med hist* 30(1): 42~56, 1986

- GILMAN, Sander L.: Lam Qua and the Development of a Westernized medical iconography in China. *Med hist* 30(1): 57~69, 1986
- LOMAX, Elizabeth: Difficulties in diagnosing infantile scurvy before 1878. *Med hist* 30(1): 70~80, 1986
- LONGFIELD-JOHNS, G.M.: Illustrations from the Wellcome collections: A Graeco-Roman speculum in the Wellcome Museum. *Med hist* 30(1): 81~89, 1986
- BUTLER, Stella V.F.: A transformation in training: the formation of university medical faculties in Manchester, Leeds, and Liverpool 1870~1884. *Med hist* 30(2): 115~132, 1986
- KOGERS, J.P.W.: Samuel Johnson's gout. *Med hist* 30(2): 133~144, 1986
- BLACKDEN, Stephanie: The board of supervision and the Scottish parochial medicals service 1845~1890. *Med hist* 30(2): 145~172, 1986
- COLEY, Noel G.: George Owen Rees., MD, FRS (1813~89): Pioneer of medical chemistry. *Med hist* 30(2): 173~190, 1986
- CAWTHON, Elizabeth: Thomas Wakley and the medical coronership-occupational death and the judicial process. *Med hist* 30(2): 191~202, 1986
- UNGERER, Gustav: Georgebaker: Translator of aparicio de Zubia's pamphlet on the "Oleum magistrale". *Med hist* 30(2): 203~211, 1986
- HALL, Lesley and MORGAN, Nei: Illustrations from the Wellcome institute library: the archive of the Lister Institute of preventive medicine. *Med hist* 30(2): 212~215, 1986
- HERVEY, Nicholas: Advocacy or folly: The alleged lunatics' friend society, 1845~1863. *Med hist* 30(3): 247~275, 1986
- STANSFIELD, Dorothy A. and STANSFIELD, Ronald G.: Dr. Thomas Beddoes and James Watt: Preparatory work 1794~96 for the Bristol pneumatic institute. *Med hist* 30(3): 276~302, 1986
- HEBERDEN, Ernest: William Heberden the elder: (1710~1801): Aspects of his London practice. *Med hist* 30(3): 303~321, 1986
- SMITH, C.E., Gordon and GIBSSON Marry E.: Yellow fever in South Wales, 1865. *Med hist* 30(3): 322~340, 1986
- ANDERSON, Trevor.; ARCINI, Caroline ANDA, Svein, TANGERUDASE etc.: Suspected endemic syphilis (treponarid) in sixteenth-century Norway. *Med hist* 30(3): 341~350, 1986.
- SCHUPBACH, William: Illustrations from the Wellcome institute library: Earl's court House from John Hunter to

- Robert Gordiner Hill. *Med hist* 30(3): 351~356, 1986
- FRANKS, Lord: Thoughts on the Wellcome Trust 1963~82.
Med hist 30(4): 379~382, 1986
- SKINNER, Ghislaine M.: Sir Henry Wellcome's Museum for
the science of history. *Med hist* 30(4): 383~418, 1986
- WEISZ, George: Constructing the medical elite in France: the
creation of the Royal Academy of Medicine 1814~20. *Med
hist* 30(4): 419~443, 1986
- TAYLOR, D.W.: The Manuscript lecture-notes of Alexander
Monro primus. *Med hist* 30(4): 444~467, 1986
- FURUKAWA, Tetsuo: Classics in neurology Charles Bell's
contribution to the study of facial expression. *Neurology* 36
(March): 382, 1986.
- FURUKAWA, Tetsuo: Classics in neurology Kayser-Fleischer
corneal ring. *Neurology* 36(July): 977, 1986